

EPSON

取扱説明書

Home Projector

EH-LS7000

マニュアル中の表示の意味 5

マニュアルの使い方と情報の探し方 7

- キーワードで検索する 7
- しおりから直接ジャンプする 7
- 必要なページだけ印刷する 7

ドキュメント類の最新バージョンを入手する 8

プロジェクターを使用する前に 9

プロジェクターの各部名称と働き 10

- プロジェクターの各部名称 - 前面/上面 10
- プロジェクターの各部名称 - 背面 11
- プロジェクターの各部名称 - 底面 11
- プロジェクターの各部名称 - インターフェイス 12
- プロジェクターの各部名称 - リモコン 13
- ダッシュボードについて 15

プロジェクターを準備する 16

プロジェクターの設置 17

- 輸送に関するご注意 18
- プロジェクターの設置・取り付け 18
- 設置に関するご注意 19
- 投写距離 20

セーフティーワイヤーを取り付ける 21

- 天吊り金具ELPMB22をお使いのとき 21
- 天吊り金具ELPMB30をお使いのとき 22

プロジェクターを接続する 24

- HDMIケーブルでビデオ機器と接続する 24
- メディアストリーミング端末を接続する 25
- eARC/ARC対応AVアンプやスピーカーを接続する 25
- ヘッドフォンを接続する 26

Trigger Out端子への接続 26

Bluetooth機器の接続 27

リモコンに電池を取り付ける 28

リモコンを操作する 29

プロジェクターの基本機能を使用する 30

プロジェクターの電源を入れる 31

プロジェクターの電源を切る 33

- プロジェクターの電源を切る（スリープ） 33
- プロジェクターの電源を切る（シャットダウン） 33

テストパターンを表示する 34

設置モードを変更する 35

メニューから設置モードを変更する 35

投写映像を切り替える 36

映像の位置を調整する（レンズシフト） 37

プロジェクターの傾きを調整する 39

ピントを調整する 40

映像の大きさを調整する 41

映像の形状を補正する 42

- Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する 42
- ポイント補正で映像のゆがみを補正する 43

映像のアスペクトモードを設定する 45

- 映像のアスペクト比を切り替える 45
- アスペクトモードの種類 45

映像を最適化する（カラーモード） 46

- カラーモードを変更する 46
- カラーモードの種類 46

光源の明るさを設定する 47

ダイナミックコントラストを有効にする	48
画像の色温度を調整する	49
映像を最適化する（詳細設定）	50
音量ボタンで音量を調整する	51

プロジェクターの便利な機能 52

映像を一時的に遮断する	53
HDMI CEC機能	54
HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する	54
プロジェクターの設定をメモリーに保存する	55
プロジェクターを初期化する	56

ネットワーク上のプロジェクターを使用する 57

有線LANに接続する	58
有線LANに接続する	58
有線LANを設定する	58
無線LAN接続	60
内蔵の無線LANユニットを安全にお使いいただくために	60
プロジェクターの無線LANを設定する	60
Windowsで無線LANを設定する	60
Macで無線LANを設定する	61

プロジェクターを監視および制御する 62

Webブラウザを使ってネットワークプロジェクターを制御する	63
Web Controlのオプション設定	64
PJLinkについて	67

Crestron Homeについて	68
Matterについて	69

メニューの設定 71

ダッシュボードの使用	72
プロジェクターメニューを操作する	74
入力メニュー	75
映像調整と音メニュー	76
映像調整メニュー	76
映像詳細設定	77
設置メニュー	79
ネットワークメニュー	80
その他のメニュー	82
動作メニュー	82
メモリーメニュー	82
プライバシーメニュー	83
アプリメニュー	83
システムメニュー	83
Bluetoothメニュー	83
メニュー設定を別のプロジェクターにコピーする（一括設定機能）	84
USBメモリーを使って設定を書き出す	84
USBメモリーを使って設定を読み込む	84

プロジェクターをメンテナンスする 86

プロジェクターのメンテナンス	87
レンズを清掃する	88
本機を清掃する	89

エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする	90
エアフィルターと吸気口を清掃する	90
エアフィルターを交換する	92
液晶パネルの色ずれを補正する（液晶アライメント）	94
ファームウェアを更新する	96
 困ったときに	97
インジケータの見方	98
電源に関するトラブル	100
電源が入らない	100
予期せず電源が切れる	100
映像に関するトラブル	101
映像がゆがむ	101
映像がぼやける	101
映像の一部が表示されない	101
映像にノイズが入る、乱れる	102
映像の明るさや色合いが違う	102
映像と音声がずれる	103
映像が上下反転して表示される	103
音声に関するトラブル	104
音が出ない、小さすぎるなどのトラブル	104
Bluetoothに関するトラブル	105
HDMI CECに関するトラブル	106
リモコン操作に関するトラブル	107
ネットワークに関するトラブル	108
Wi-Fiネットワークに関するトラブル	108
無線LAN認証できない	108
アクセスポイントを検索できない	108
Webブラウザーを使って設定を変更できない	109

付録 110

オプション・消耗品一覧	111
設置用金具	111
外付けオプション	111
消耗品	111
スクリーンサイズと投写距離	112
対応解像度	114
本機仕様	115
接続端子	116
Bluetooth仕様	116
安全規格対応シンボルマークと説明	117
レーザー製品を安全にお使いいただくために	119
レーザー警告ラベル	119
用語解説	121
一般のご注意	122
使用限定について	122
本機を日本国外へ持ち出す場合の注意	122
瞬低（瞬時電圧低下）基準について	122
JIS C 61000-3-2適合品	122
表記について	122
商標について	123
ご注意	123
著作権について	123

外形寸法図 124

マニュアル中の表示の意味

安全に関する表示

本製品および取扱説明書には、製品を安全にお使いいただくために絵表示が使われています。

人体への危害や財産への損害を防ぐために、次の絵表示で表記された説明は、内容をよくお読みいただいた上で、説明に従ってお取り扱いください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する表示

注意	注意して取り扱わないと、本製品の故障や損傷の原因となるおそれがある内容を記載しています。
	知っておくと便利な関連情報を記載しています。
【ボタン名】	リモコンまたは本機のボタン名称を示しています。 例：【Esc】 ボタン
[メニュー/設定名]	プロジェクターのメニューや設定の名称を示しています。 例： [映像調整] メニューを選択する  [映像調整と音] > [映像調整]
»	関連事項を記載しているページを示しています。
	プロジェクターのメニューの階層を示しています。

» 関連項目

- 「マニュアルの使い方と情報の探し方」 [p.7](#)

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 [p.8](#)

PDFマニュアルでは、探したい情報のキーワードから該当箇所を検索したり、しおりから直接ジャンプしたりすることができます。また、必要なページだけ印刷することもできます。ここでは、PDFマニュアルをコンピュータのAdobe Reader Xで開いた場合の使い方を説明します。

▶ 関連項目

- 「キーワードで検索する」 p.7
- 「しおりから直接ジャンプする」 p.7
- 「必要なページだけ印刷する」 p.7

キーワードで検索する

[編集] メニューの [高度な検索] をクリックします。検索ボックスに探したい情報のキーワード（語句）を入力して、[検索] をクリックします。キーワードの該当箇所が一覧で表示されます。表示された文字列をクリックすると、該当ページにジャンプします。

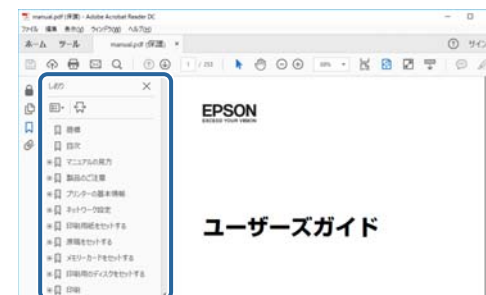


しおりから直接ジャンプする

タイトルをクリックするとそのページにジャンプします。[+] または [>] をクリックすると下の階層のタイトルが表示されます。ジャンプ前のページに戻りたいときは、キーボードで以下の操作をします。

- Windows : [Alt] キーを押したまま [←] キーを押します。

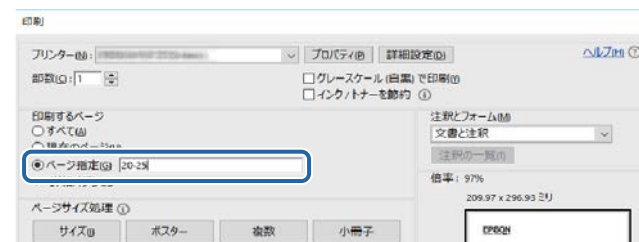
- Mac OS : commandキーを押したまま [←] キーを押します。



必要なページだけ印刷する

紙で読みたいページだけを抜き出して印刷できます。[ファイル] メニューの [印刷] をクリックして、[印刷するページ] の [ページ指定] で印刷したいページを指定します。

- 連続したページの指定は、開始ページと終了ページの間にハイフンを入れます。
例：20-25
- 連続していない複数ページの指定は、ページをカンマで区切ります。
例：5,10,15



説明書や仕様書の最新バージョンは、EPSONのWebサイトからダウンロードできます。

epson.jp/support/used/ks/14.htmにアクセスし、機種名を入れてください。

プロジェクターを使用する前に

本機の各部名称について説明します。

▶ 関連項目

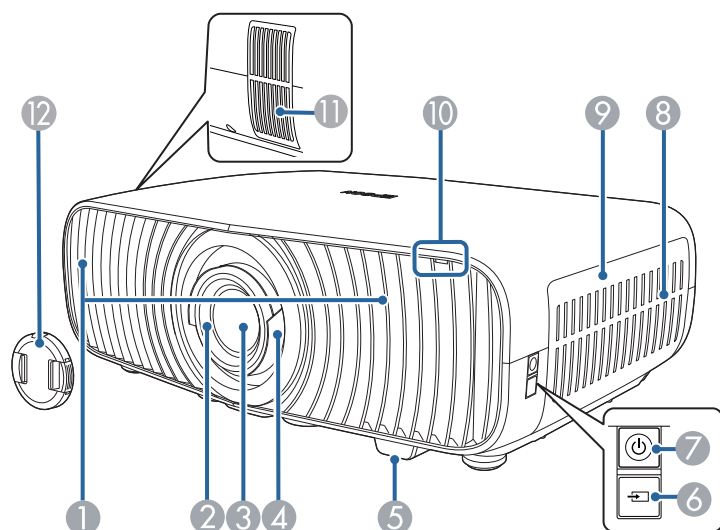
- 「プロジェクターの各部名称と働き」 [p.10](#)

本機の各部名称とその働きについて説明します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの各部名称 - 前面/上面」 [p.10](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - 背面」 [p.11](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - 底面」 [p.11](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - インターフェイス」 [p.12](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - リモコン」 [p.13](#)
- ・「ダッシュボードについて」 [p.15](#)

プロジェクターの各部名称 - 前面/上面

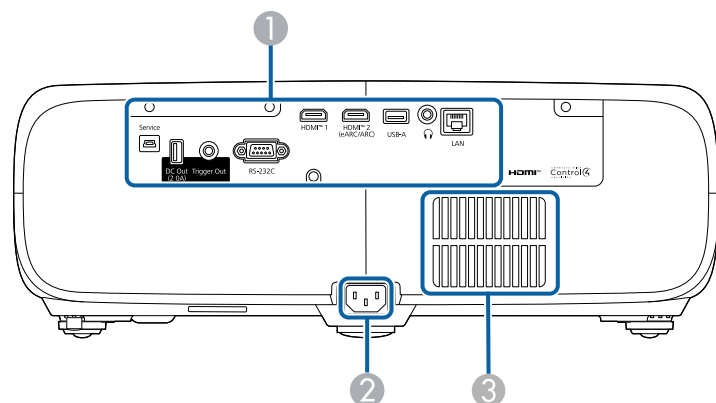


名称	働き
① 排気口	本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。 ⚠ 注意 投写中は手や顔を排気口に近づけたり、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。
② フォーカスリング	画面全体の焦点を合わせます。
③ 投写レンズ	ここから映像を投写します。
④ ズームリング	画面サイズを設定します。
⑤ リモコン受光部	リモコン信号を受信します。
⑥ ソース切替ボタン	入力ソースを切り替えます。
⑦ 電源ボタン (⏻)	本機の電源をオン/オフします。
⑧ 吸気口 (エアフィルター)	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
⑨ エアフィルターカバー	エアフィルターの清掃・交換時に開閉します。
⑩ インジケータ	本機の状態を表示します。
⑪ 吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
⑫ レンズカバー	本機を使用しないときに装着し、投写レンズを保護します。

▶ 関連項目

- ・「インジケータの見方」 [p.98](#)
- ・「リモコンを操作する」 [p.29](#)
- ・「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.90](#)

プロジェクターの各部名称 - 背面

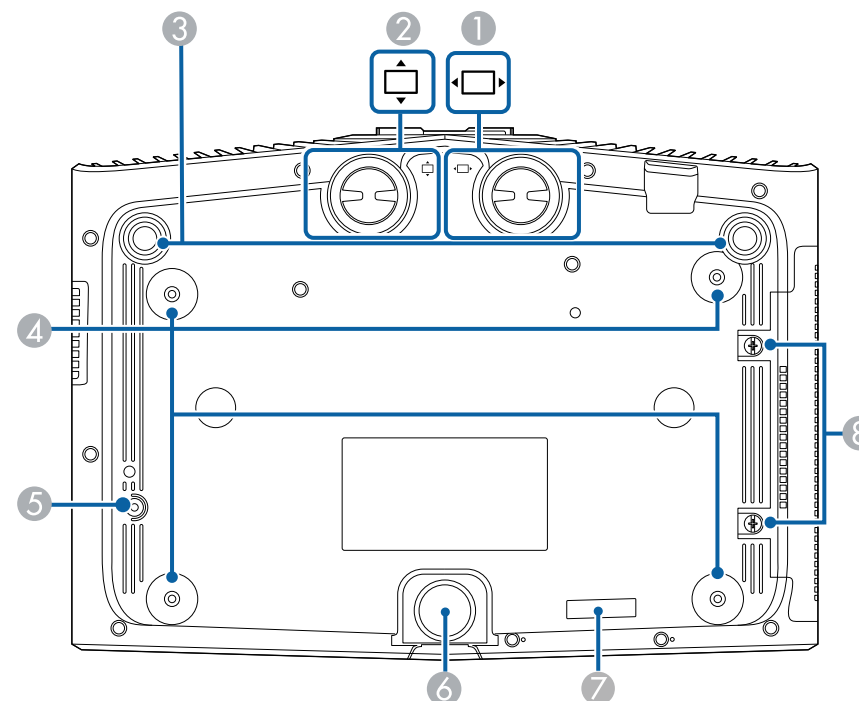


名称	働き
① インターフェイス	外部機器を接続します。
② 電源端子	電源コードを接続します。
③ 吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターの各部名称 - インターフェイス」 [p.12](#)

プロジェクターの各部名称 - 底面



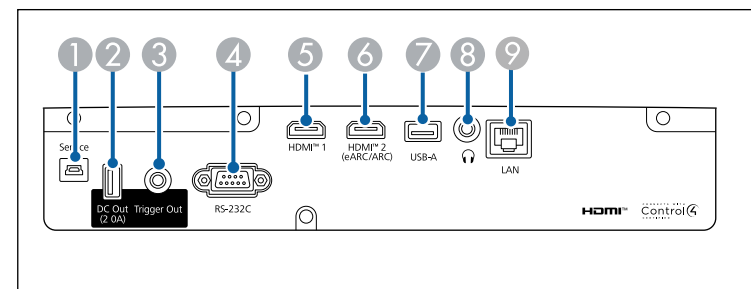
名称	働き
① レンズシフトダイヤル（水平方向）	このダイヤルを回して、投写映像を水平方向に移動します。
② レンズシフトダイヤル（垂直方向）	このダイヤルを回して、投写映像を縦方向に移動します。
③ フロントフット	机上に設置したときにフットを伸縮させて水平方向の傾きを調整します。

名称	働き
④ 天吊り金具固定部 (4箇所)	<p>本機を天井から吊り下げるときは、オプションの天吊り金具をすべての固定部を使用して取り付けます。</p> <div>  <p>M4ネジ（最大深さ9mm）を使って、本機底面の天吊金具固定部（4箇所）と設置用金具を固定してください。</p> </div>
⑤ ワイヤークランプ 固定部	オプションの天吊り金具を取り付けるときは、落下防止のため、カラビナをここに取り付けてセーフティーワイヤーを通します。
⑥ リアフット	机上に設置したときに、本体を支えます。
⑦ ストラップ固定ホール	本機を天井から吊り下げるときは、面ファスナーストラップをここに通して、ドングルなどを固定します。
⑧ エアフィルターカバー固定ネジ	エアフィルターカバーを固定するネジです。

▶ 関連項目

- 「セーフティーワイヤーを取り付ける」 p.21

プロジェクターの各部名称 - インターフェイス



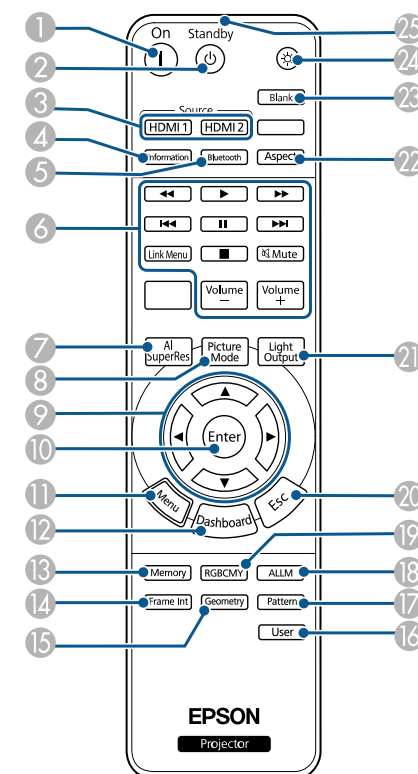
名称	働き
① Service端子	通常は使用しません。
② DC Out（2.0A）端子	<p>オプションまたは市販のメディアストリーミング端末に電力を供給します。</p> <p>USBデータ転送には使用できません。</p>
③ Trigger Out端子	<p>電動スクリーンなどの外部機器に接続します。</p> <div>  <p>注意 ヘッドホンプラグとTrigger Out端子は、電圧仕様が異なります。ヘッドホンプラグをTrigger Out端子に接続しないでください。故障の原因となるおそれがあります。</p> </div>
④ RS-232C端子	RS-232Cケーブルを接続して、コンピューターから本機を制御します。（通常はこの端子を使用する必要はありません。）
⑤ HDMI1端子	<p>HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。</p> <p>この端子はHDCP 2.3に対応しています。</p>

名称	働き
⑥ HDMI2 (eARC/ARC) 端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。 この端子はHDCP 2.3に対応しています。 この端子はHDMI eARC/ARCに対応しています。
⑦ USB-A端子	一括設定機能でメニュー設定をエクスポートまたはインポートするときに使います。
⑧ Audio Out端子	投写中の入力ソースの音声をヘッドフォンに出力します。 注意 本機のAudio Out端子は3極プラグのヘッドフォン専用です。3極プラグ以外のヘッドフォンを接続すると、音声が正常に再生されない可能性があります。
⑨ LAN端子	LANケーブルを接続して、ネットワークに接続します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターを接続する」 [p.24](#)

プロジェクターの各部名称 - リモコン



名称	働き
① 【On】 ボタン	本機の電源を入れます。
② 【Standby】 ボタン	本機の電源を切ります。
③ 【HDMI1】、【HDMI2】 ボタン	HDMI1端子またはHDMI2 (eARC/ARC)端子からの映像に切り替えます。
④ 【Information】ボタン	[情報表示] 画面を表示します。
⑤ 【Bluetooth】 ボタン	[Bluetooth] 画面を表示します。

名称	働き
⑥ 再生操作ボタン	HDMI CEC規格対応の機器を操作します。
⑦ 【AI Super Res】 ボタン	[AISR] 画面を表示します。 AIによるアップスケーリングを有効にし、映像のシャープさと細部の表現力を向上させます。
⑧ 【Picture Mode】 ボタン	[画質モード] 画面を表示します。
⑨ 上下左右ボタン	メニューの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。 また、位置調整などにも使用します。
⑩ 【Enter】 ボタン	メニューの表示中に押すと、選択項目を決定し、次の階層に進みます。
⑪ 【Menu】 ボタン	[メニュー] 画面を表示/終了します。
⑫ 【Dashboard】 ボタン	ダッシュボードを表示します。 詳しくは「ダッシュボードについて」をご覧ください。
⑬ 【Memory】 ボタン	[メモリー] 画面を表示します。 詳細は「プロジェクターの設定をメモリーに保存する」をご覧ください。
⑭ 【Frame Int】 ボタン	[フレーム補間] 画面を表示します。 [フレーム補間] の強度を設定します。
⑮ 【Geometry】 ボタン	[幾何学歪み補正] 画面を表示します。
⑯ 【User】 ボタン	プロジェクターの[動作] メニューの[ユーザーボタン] 設定で割り当てられた内容を表示します。
⑰ 【Pattern】 ボタン	[テストパターン] 画面を表示します。
⑱ 【ALLM】 ボタン	[ALLM] 画面を表示します。 入力遅延を抑える[ALLM] (低遅延モード) の設定を行います。

名称	働き
⑲ 【RGBCMY】 ボタン	[カラーチューナー] 画面を表示します。 [カラーチューナー] を有効にすると、各RGBCMYの各色に対して色相、彩度、明るさ、オフセット、ゲインを調整できます。
⑳ 【Esc】 ボタン	メニューの表示中に押すと、前のメニュー階層に戻ります。
㉑ 【Light Output】 ボタン	[レーザーライト出力] 画面を表示します。 光源の明るさを設定します。
㉒ 【Aspect】 ボタン	[アスペクト] 画面を表示します。
㉓ 【Blank】 ボタン	映像を一時的に遮断します。再開するときは、再度このボタンを押します。  遮断中も映像は進んでいるため、遮断した場面から投写を再開することはできません。
㉔ イルミネーション ボタン	このボタンを押すと、リモコン上のボタンが約10秒間光ります。暗がりでもリモコンを操作するときに便利です。
㉕ リモコン発光部	リモコン信号を出力します。

▶ 関連項目

- 「投写映像を切り替える」 [p.36](#)
- 「メニューの設定」 [p.71](#)
- 「映像を最適化する (カラーモード)」 [p.46](#)
- 「映像のアスペクトモードを設定する」 [p.45](#)
- 「映像を一時的に遮断する」 [p.53](#)
- 「テストパターンを表示する」 [p.34](#)
- 「プロジェクターの設定をメモリーに保存する」 [p.55](#)
- 「プロジェクターメニューを操作する」 [p.74](#)
- 「ダッシュボードの使用」 [p.72](#)

ダッシュボードについて



名称	働き
①	現在の日付と時刻を表示します。
②	プロジェクターの名称を表示します。
③	各メニュー画面を表示します。
④	ソフトウェア更新などの通知を表示します。
⑤	[メニュー] 画面を表示します。

プロジェクターを準備する

プロジェクターの準備方法を説明します。

▶ 関連項目

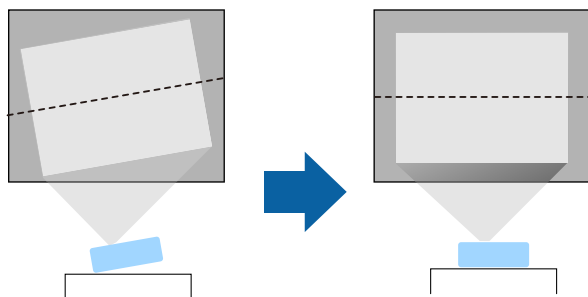
- 「プロジェクターの設置」 [p.17](#)
- 「セーフティーワイヤーを取り付ける」 [p.21](#)
- 「プロジェクターを接続する」 [p.24](#)
- 「リモコンに電池を取り付ける」 [p.28](#)

平らな場所にプロジェクターを置いて映像を投写します。

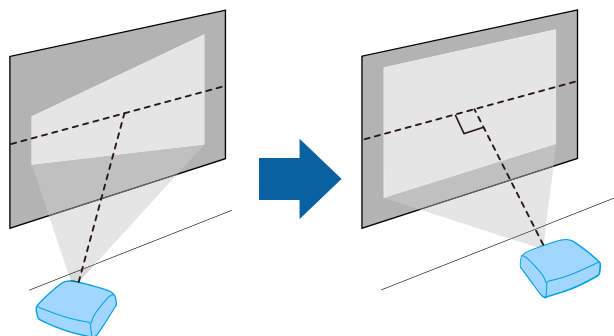
位置を固定して使用する場合は、天井にプロジェクターを取り付けることもできます。天井からプロジェクターを吊り下げるときは、オプションの天吊り金具が必要です。

プロジェクターの設置位置を決めるときは、以下の点に注意してください。

- プロジェクターは水平で安定した場所に置くか、本製品に対応した金具を使用して取り付けます。



- 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。



⚠ 警告

- 天井からプロジェクターを吊り下げるときは、天吊り金具の取り付けが必要となります。プロジェクターを正しく設置しないと、落下により破損やけがの原因となることがあります。
- 天井への取り付け工事は、特別な技術が必要となります。プロジェクターを正しく設置しないと、落下により破損やけがの原因となることがあります。
- プロジェクターの天吊り固定部に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。プロジェクターにそれらの溶剤が付着すると、プロジェクターのケースが割れ、プロジェクターが落下するおそれがあります。
- 天吊り金具とプロジェクターの取り付け不備は、プロジェクターの落下事故につながるおそれがあります。天吊り金具は、プロジェクターの取扱説明書で指定されている天吊り金具固定部すべてを使用して、確実に固定してください。また、十分な強度のあるワイヤーなどを使って、プロジェクターと天吊り金具を固定してください。本機に対応したエプソン指定の天吊り金具を使用してください。
- 湿気やホコリの多い場所や、油煙や湯気が当たる場所（調理場所、ご家庭のキッチン、加湿器の近くなど）にプロジェクターを設置しないでください。火災・感電の原因となることがあります。また、油によりプロジェクターの外装ケースが劣化し、天吊り設置したプロジェクターが落下するおそれがあります。

外装ケースの劣化・破損によりプロジェクターの落下が想定される環境例

- 油煙が多い場所（工場、調理場所、ご家庭のキッチンなど）
- 溶剤、薬品が揮発している空間（工場、実験室など）
- 油、洗剤、薬品などが付着する場所（工場、調理場所、ご家庭のキッチンなど）
- アロマオイルを頻繁に焚く場所（リラクゼーションルームなど）
- イベント演出などのスモーク（油成分以外も含む）や、泡が多い場所（イベント演出装置の周辺など）
- 加湿器の近く

⚠ 警告

- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- ホコリや塵の多い場所で使用・保管はしないでください。投写映像の品質が劣化したり、エアフィルターや投写レンズにホコリが詰まって、故障や火災につながる可能性があります。
- 不安定な場所や荷重範囲を超える場所には設置しないでください。落下や転倒によりけがや事故の原因となります。
- 高い場所に設置するときは、地震などの非常時の安全確保と事故防止のため、ワイヤーなどを用いて落下防止策を施してください。正しく設置しないと、落下によりけがや事故の原因となります。
- 塩害が発生する場所や、温泉の硫黄ガスなどの腐食性ガスが発生する場所には設置しないでください。腐食による落下の原因となることがあります。また、本機の故障の原因となることがあります。

注意

- 本機を標高1,500 m以上の場所で使用するときは、[設置]メニューの[高地モード]を[オン]にして、本機の内部温度が適切に調節されるようにしてください。
- 湿気やホコリの多い場所、たばこなどの煙が当たる場所への設置は、できるだけ避けてください。

▶ 関連項目

- 「輸送に関するご注意」 [p.18](#)
- 「プロジェクターの設置・取り付け」 [p.18](#)
- 「設置に関するご注意」 [p.19](#)
- 「投写距離」 [p.20](#)

輸送に関するご注意

本機内部にはガラス部品や精密部品が数多く使われています。輸送の際には、衝撃による故障防止のため、次のように取り扱ってください。

- 接続している機器はすべて取り外します。
- 長距離を輸送するときや、運送業者に依頼されるときは、本機を緩衝材で保護し、頑丈な箱に入れて、精密機器であることを表記してください。
- 修理のため本機を輸送するとき、ご購入時の箱に入れるか、本機を緩衝材で保護してください。精密機器であることを表記してください。

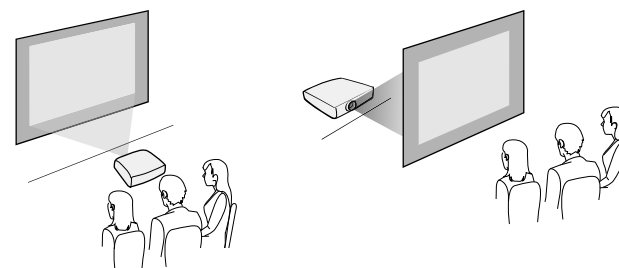


輸送中に発生したトラブルについては責任を負いかねますので、ご了承ください。

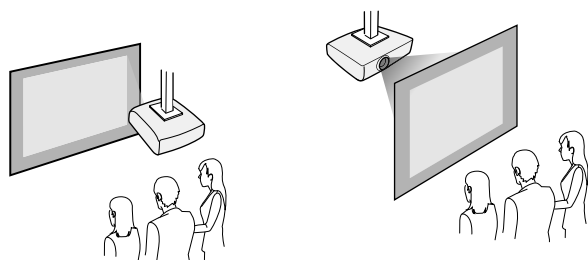
プロジェクターの設置・取り付け

本機は以下の方法で設置・取り付けできます。

フロント/リア



フロント・天吊り/リア・天吊り



設置する場所や方法に合わせて、[設置]メニューで[設置モード]を選択します。



- [設置モード]の初期設定は[フロント]です。
- 本機を天吊り設置する場合は、最初に机などの平らな場所に置いた状態で電源を入れ、初期設定を行ってから天吊りすることをおすすめします。

▶ 関連項目

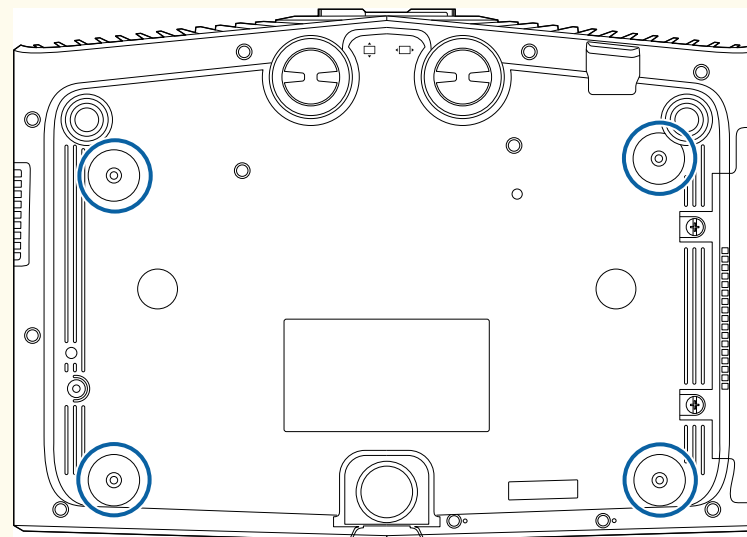
- 「設置モードを変更する」 [p.35](#)

設置に関するご注意

設置の際には以下の点にご注意ください。

注意

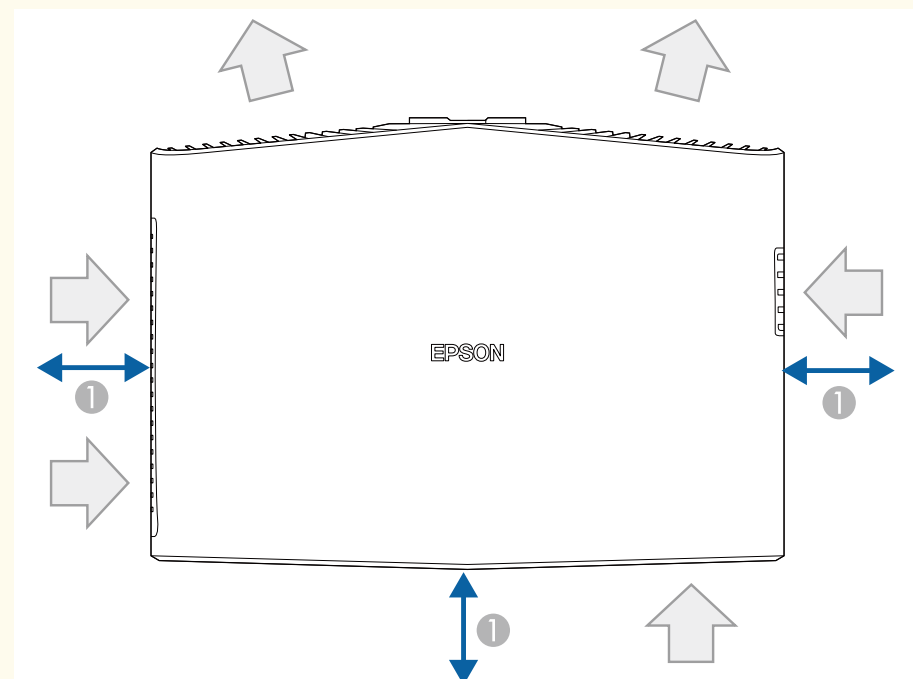
- 通気のためにプロジェクターの周囲に十分なスペースを確保します。通気の妨げになるものをプロジェクター上面や周囲に置かないでください。
- 本機を傾けて設置する場合は、専門業者にご依頼のうえ、本機に対応した専用の設置用金具をお使いください。
- 正しく設置しないと、落下により破損やけがの原因となることがあります。
- M4ネジ（最大深さ9mm）を使って、本機底面の天吊金具固定部（4箇所）と設置用金具を固定してください。



設置スペース

注意

吸気口・排気口をふさがないように、本機の周辺には以下のスペースを確保してください。

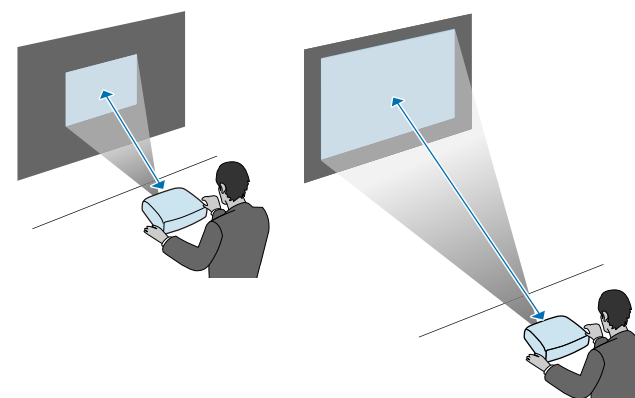


① 10cm

- 壁に排気風が当たらないように設置してください。
- 空気が循環しない場所には設置しないでください。
- プロジェクターの周囲に十分なスペースがなく、プロジェクターの内部温度が上昇すると、光源の明るさが低下することがあります。
- 排気口からの熱風が障害物に当たって吸気口に入りこまないように、プロジェクター周辺の障害物を取り除いてください。

投写距離

本機からスクリーンまでの距離に応じて、映像の大きさが決まります。本機をスクリーンから遠ざけるほど、投写される映像は大きくなります。スクリーンサイズと投写距離を参考にして、本機からスクリーンまでのおおよその距離を決めてください。



関連項目

- 「スクリーンサイズと投写距離」 [p.112](#)

本機を天吊り設置するときは、落下防止用のセーフティーワイヤーを取り付けます。

⚠ 警告

セーフティーワイヤーは、必ずエプソン純正の天吊り金具に同梱されているものをご使用ください。セーフティーワイヤーは、別途セーフティーワイヤーセット ELPWR01としてもお買い求めいただけます。

▶ 関連項目

- 「天吊り金具ELPMB22をお使いのとき」 [p.21](#)
- 「天吊り金具ELPMB30をお使いのとき」 [p.22](#)

天吊り金具ELPMB22をお使いのとき

以下の手順でセーフティーワイヤーを取り付けます。

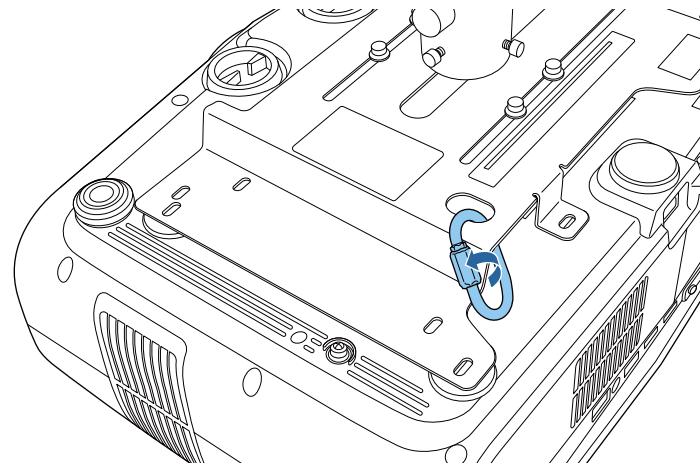
事前に天吊り金具（ELPMB22）が確実に本機に取り付けられていること、また、セーフティーワイヤーセットの以下の同梱品がそろっていることを確認してください。

- セーフティーワイヤー×1
- カラビナ×2
- ワイヤークランプ×1
- 取付用ネジ（M4×10 mm）×1

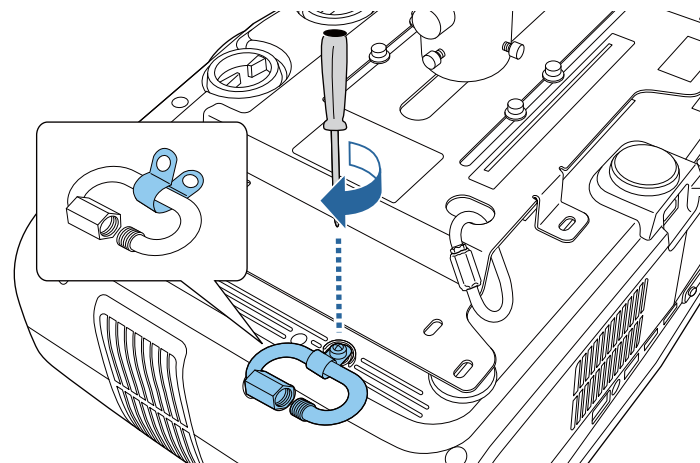


天吊り金具ELPMB22について詳しくは、『天吊り金具 ELPMB22/ELPMB23 取扱説明書』をご覧ください。

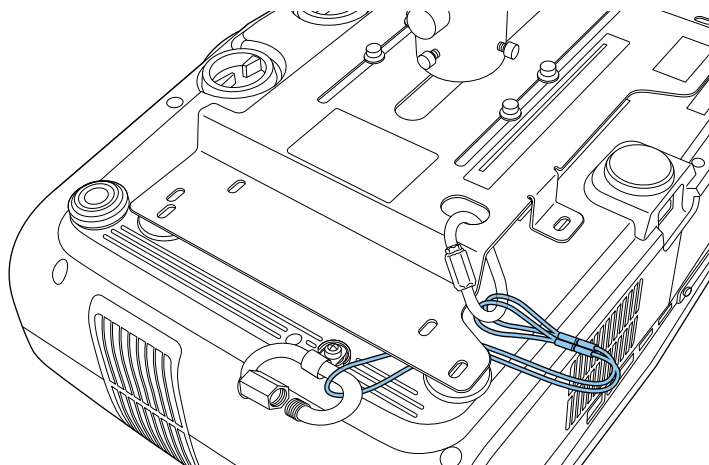
- 1 天吊り金具にカラビナを通して、カラビナを締めます。



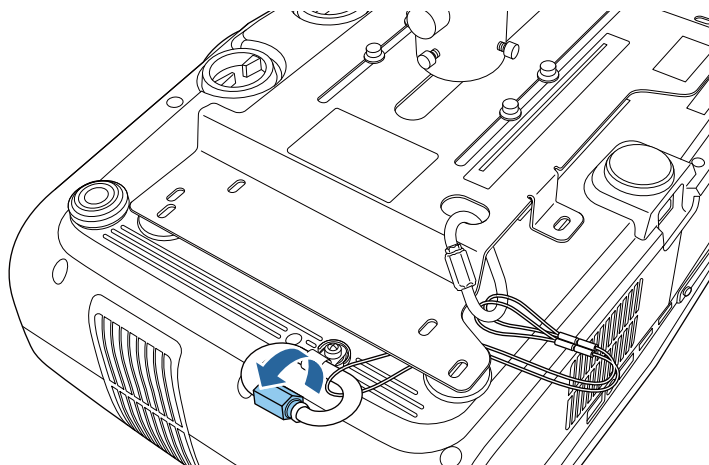
- 2 もう一つのカラビナにワイヤークランプを取り付け、ワイヤークランプをプロジェクターのワイヤークランプ固定部に取付用ネジで固定します。



- 3** セーフティーワイヤーを天吊り金具側のカラビナに通して、両端をプロジェクター側のカラビナに取り付けます。



- 4** カラビナを締めます。



▶ 関連項目

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 [p.8](#)

天吊り金具ELPMB30をお使いのとき

以下の手順でセーフティーワイヤーを取り付けます。

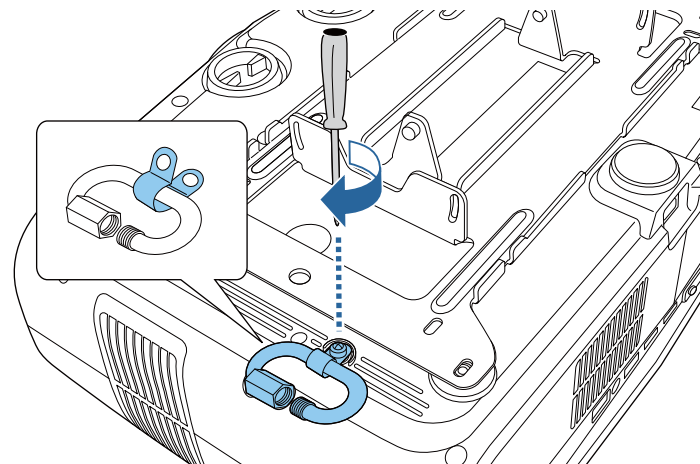
事前に天吊り金具（ELPMB30）のプロジェクター取付金具が確実に本機に取り付けられていること、また、セーフティーワイヤーセットの以下の同梱品がそろっていることを確認してください。

- セーフティーワイヤー×1
- カラビナ×2（ELPMB30で使用するカラビナは1つです。）
- ワイヤークランプ×1
- 取付用ネジ（M4×10 mm）×1

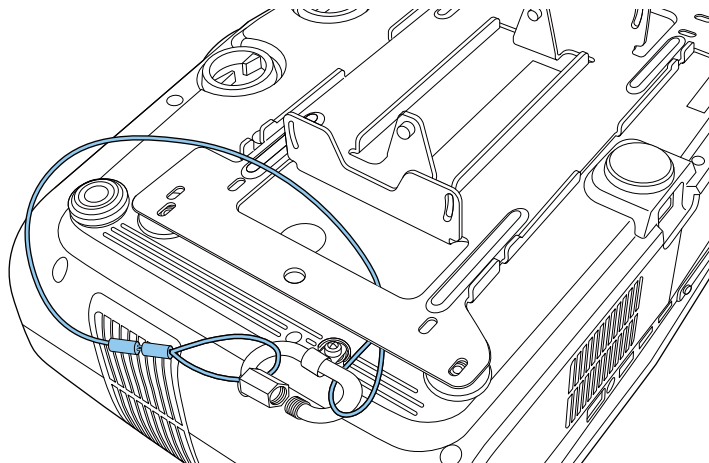


ELPMB30について詳しくは、『ELPMB30取扱説明書』をご覧ください。

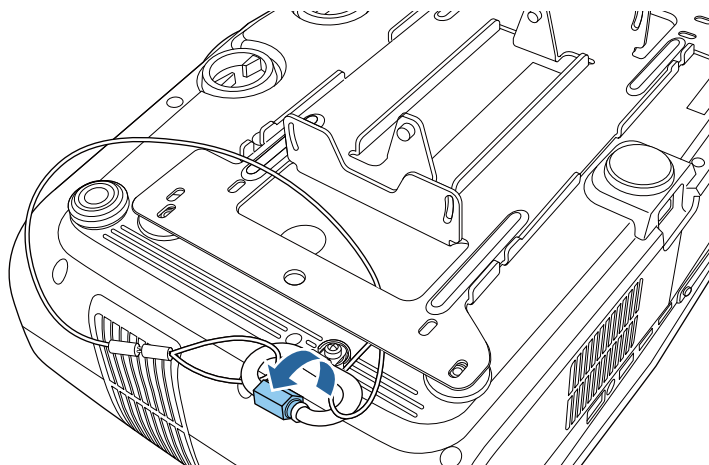
- 1** カラビナにワイヤークランプを取り付け、ワイヤークランプをプロジェクターのワイヤークランプ固定部に取付用ネジで固定します。



- 2** セーフティワイヤーを天吊り金具に通して、両端をカラビナに取り付けます。



- 3** カラビナを締めます。



▶ 関連項目

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 [p.8](#)

プロジェクターと映像機器の接続方法を説明します。

注意

接続する前に、使用するケーブルのコネクターの形状と向きを確認してください。形状が合わないコネクターを無理に端子に押し込まないでください。お使いの機器、プロジェクターの破損や故障の原因となります。



本機に同梱されているケーブルは、『かんたん操作ガイド』で確認できます。同梱されていないケーブルは、オプション品または市販品をお買い求めください。

▶ 関連項目

- 「HDMIケーブルでビデオ機器と接続する」 [p.24](#)
- 「メディアストリーミング端末を接続する」 [p.25](#)
- 「eARC/ARC対応AVアンプやスピーカーを接続する」 [p.25](#)
- 「ヘッドフォンを接続する」 [p.26](#)
- 「Trigger Out端子への接続」 [p.26](#)
- 「Bluetooth機器の接続」 [p.27](#)
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 [p.8](#)

HDMIケーブルでビデオ機器と接続する

HDMI端子を搭載したビデオ機器を使用しているときは、HDMIケーブルでプロジェクターとビデオ機器を接続できます。

注意

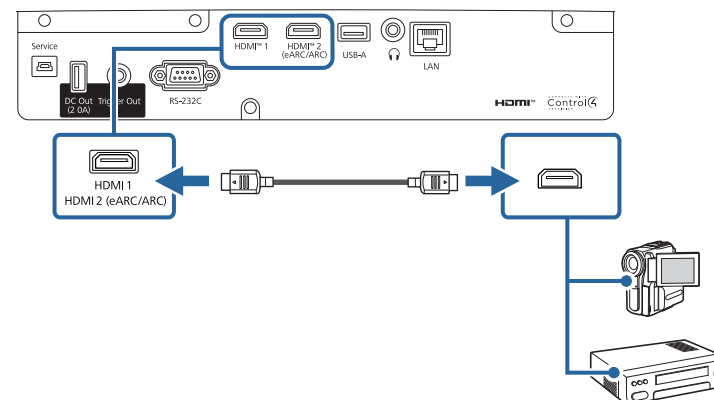
あらかじめビデオ機器の電源を切ってください。ビデオ機器の電源が入った状態で接続すると、故障の原因となります。



- 接続する機器の端子が特有の形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。
- 使用するケーブルは、接続するビデオ機器の出力信号によって異なります。
- ビデオ機器によっては、数種類の信号を出力できます。出力できる信号の種類は、お使いのビデオ機器に同梱の取扱説明書で確認してください。
- 4K 60Hz (4:4:4 8bit) などの18Gbps伝送帯域の信号を入力する場合は、プレミアムハイスピードのHDMIケーブルを使用してください。また、4K 120Hzなどの48Gbps伝送帯域の信号を入力する場合は、ウルトラムハイスピードHDMIケーブルを使用してください。映像が正しく表示されないときは、[入力]メニューの[HDMI EDID Version]の設定を変更してください。
 - ☛ [入力] > [入力] > [HDMI 1] > [HDMI EDID Version]
 - ☛ [入力] > [入力] > [HDMI 2] > [HDMI EDID Version]

1 ビデオ機器のHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI端子のどちらかに接続します。



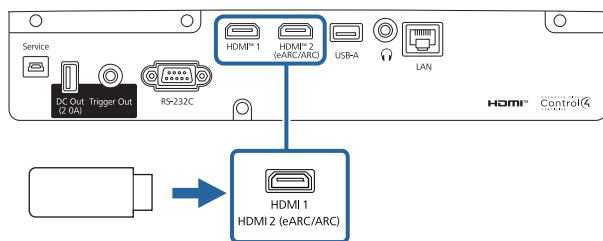
メディアストリーミング端末を接続する

メディアストリーミング端末を本機のHDMI端子に接続します。USB給電ケーブルを接続すると、プロジェクターからメディアストリーミング端末に電力を供給できます。



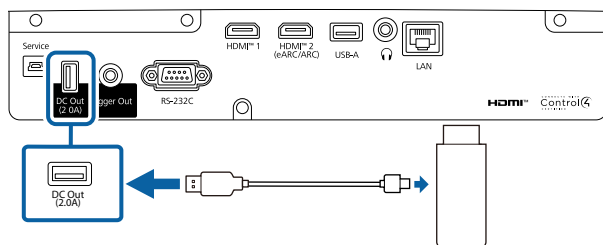
メディアストリーミング端末の接続方法や動作条件はお使いの機器によって異なります。詳しくは機器の取扱説明書をご覧ください。取扱説明書に従わないと、正常に動作しないことがあります。

1 メディアストリーミング端末をHDMI端子に接続します。



2 USB給電ケーブルを本機のDC Out端子に接続します。

3 給電ケーブルのもう一方のコネクタをメディアストリーミング端末に接続します。



eARC/ARC対応AVアンプやスピーカーを接続する

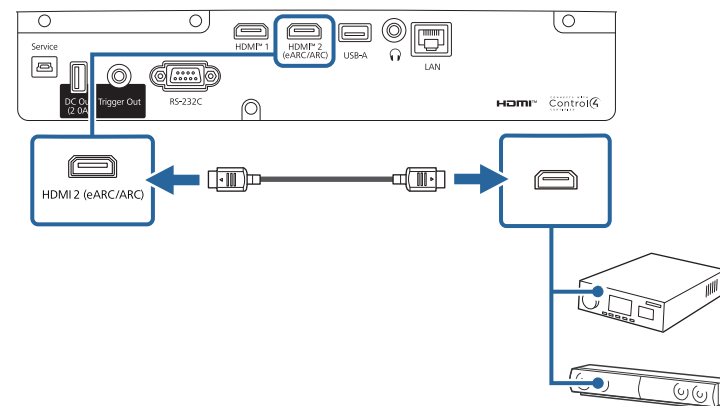
HDMI端子を搭載したAVアンプやサウンドバーなどの外部スピーカーを使用しているときは、イーサネット対応のHDMIケーブルを使って、これらの機器に音声を出力できます。



- 本機にAVアンプを接続しているときは、[HDMI制御] を [オン] に設定します。
👉 [入力] > [入力] > [HDMI制御]

1 AVアンプやスピーカーのHDMI出力端子（eARC/ARC対応）にHDMIケーブルを接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクタを本機のHDMI2（eARC/ARC）端子に接続します。



- 3** 必要に応じてAVアンプやスピーカーの設定をします。詳しくはお使いの機器の取扱説明書をご覧ください。



- 音声为正しく出力されないときは、[デジタル出力] の設定を [自動] から [PCM] に変えてみてください。
 👉 [映像調整と音] > [オーディオ出力] > [デジタル出力]
- eARC/ARCの対応音声形式について詳しくは、『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。

▶ 関連項目

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 [p.8](#)

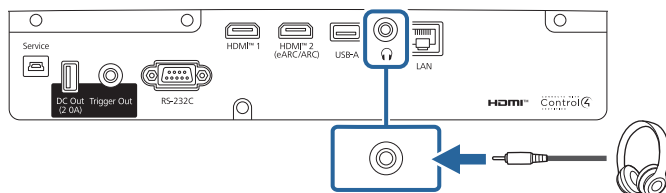
ヘッドフォンを接続する

本機のAudio Out端子にはヘッドフォンを接続することができます。本機のリモコンで音量を調整できます。

注意

本機のAudio Out端子は3極プラグのヘッドフォン専用です。3極プラグ以外のヘッドフォンを接続すると、音声は正常に再生されない可能性があります。

- 1** ヘッドフォンのケーブルを本機のAudio Out端子に接続します。



⚠ 注意

初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

Trigger Out端子への接続

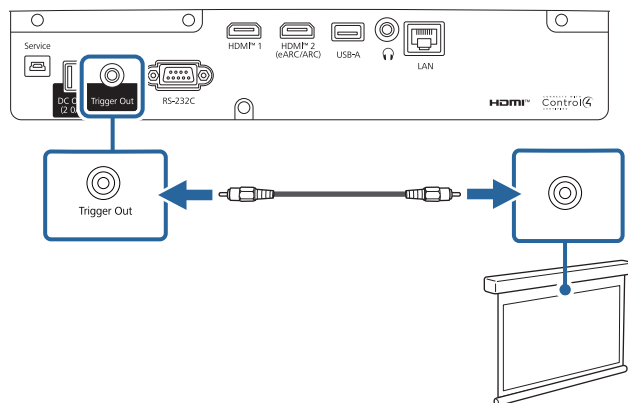
トリガー信号に対応した電動スクリーンなどの外部機器に接続することができます。外部機器に本機の電源の状態（オン/オフ）などを伝えるため、電源が入っている間、この端子から12Vの信号（最大200mA）が出力されます。

- 1** ステレオミニプラグオーディオケーブルを外部機器のTrigger端子に接続します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。

注意

ヘッドホンプラグとTrigger Out端子は、電圧仕様が異なります。ヘッドホンプラグをTrigger Out端子に接続しないでください。故障の原因となるおそれがあります。

- 2** ケーブルのもう一方のコネクターを本機のTrigger Out端子に接続します。



- 3** [動作] メニューの [トリガーアウト] を設定します。

Bluetooth機器の接続

Bluetooth対応のスピーカーやヘッドフォンを接続して、本機の音声をこれらの機器に出力することもできます。

- 1** 本機の電源を入れます。
- 2** リモコンの【Bluetooth】ボタンを押します。
- 3** [Bluetooth] を [オン] に設定します。
- 4** 以下の順序でメニューを選択し、画面の指示に従ってペアリングしてください。
 - 🖱 [Bluetooth] > [アクセサリーのペア設定]

本機に付属の単3形電池2個をリモコンに取り付けます。

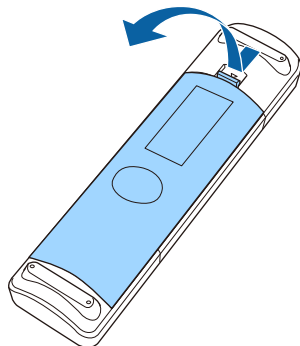
注意

- 電池を取り扱う前に、『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。



電池がなくなったら電池を交換してください。リモコンには、単3マンガン電池またはアルカリ電池2個を使用します。

1 電池カバーを外します。

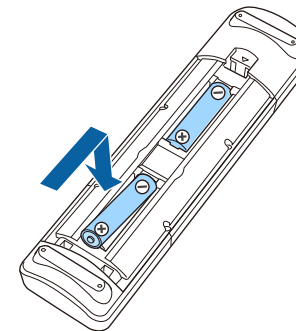


2 古い電池が入っていれば取り外します。



使用済みの電池は、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

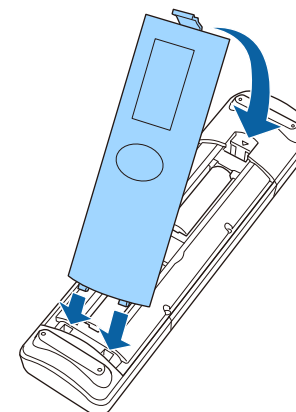
3 電池の + と - の向きを確認してリモコンにセットします。



警告

電池ホルダー内の表示を確認して、(+) (-) を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

4 電池カバーを閉め、カチッと音がするまで押し込みます。



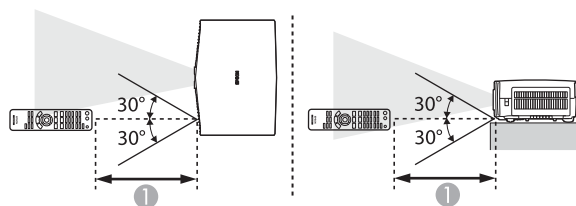
▶ 関連項目

- 「リモコンを操作する」 [p.29](#)

リモコンを操作する

リモコンを使用して、室内の離れた場所からプロジェクターを操作できます。

リモコンは、本機のリモコン受光部に対して下図の角度で使用してください。



① 10m



- 蛍光灯の強い光や直射日光が当たる環境ではリモコンを使用しないでください。プロジェクターが反応しないことがあります。
- リモコンを長期間使用しないときは、電池を取り外しておきます。

プロジェクターの基本機能を使用する

プロジェクターの基本機能を説明します。

▶ 関連項目

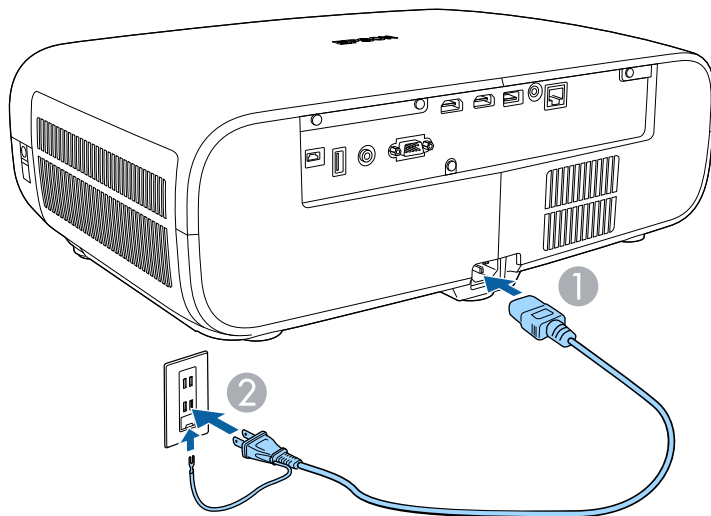
- 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.31](#)
- 「プロジェクターの電源を切る」 [p.33](#)
- 「テストパターンを表示する」 [p.34](#)
- 「設置モードを変更する」 [p.35](#)
- 「投写映像を切り替える」 [p.36](#)
- 「映像の位置を調整する（レンズシフト）」 [p.37](#)
- 「プロジェクターの傾きを調整する」 [p.39](#)
- 「ピントを調整する」 [p.40](#)
- 「映像の大きさを調整する」 [p.41](#)
- 「映像の形状を補正する」 [p.42](#)
- 「映像のアスペクトモードを設定する」 [p.45](#)
- 「映像を最適化する（カラーモード）」 [p.46](#)
- 「光源の明るさを設定する」 [p.47](#)
- 「ダイナミックコントラストを有効にする」 [p.48](#)
- 「画像の色温度を調整する」 [p.49](#)
- 「映像を最適化する（詳細設定）」 [p.50](#)
- 「音量ボタンで音量を調整する」 [p.51](#)

使用前にプロジェクターの電源を入れます。



- 本機にビデオ機器を接続するときは、本機の電源を入れてから、ビデオ機器の電源を入れます。
- 本機を天吊り設置する場合は、最初に机などの平らな場所に置いた状態で電源を入れ、初期設定を行ってから天吊りすることをおすすめします。

1 本機とコンセントを電源コードで接続します。



⚠ 警告

必ず接地接続を行ってください。接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

本機はスタンバイ状態になります。スタンバイ状態は、プロジェクターに電力が供給されていて、電源が入っていない状態です。

2 プロジェクターの電源ボタン、またはリモコンの【On】ボタンを押して本機の電源を入れます。

インジケーターが白く点灯します。



- 最初に本機の電源を入れたときには、初期設定ウィザードが表示されます。上下左右ボタンと【Enter】ボタンを使って、設置モードや言語などを設定してください。
- 初期設定では、プロジェクターのメニュー画面は黒で表示されます。本書では断りがない限り白い画面を用いて説明しています。

映像が投写されないときは、以下を試してください。

- 接続されているコンピューターまたはビデオ機器の電源を入れます。
- ノートパソコンを使用するときは、コンピューターの画面出力を切り替えます。
- Blu-rayなどのメディアを挿入して再生します。
- プロジェクターの【Source】ボタンを押します。
- 投写したい入力ソースに対応するリモコンのボタンを押します。

⚠ 警告

- 投写中は本機のレンズをのぞきこまないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様の行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 投写中に本などで投写光を遮らないでください。投写光を遮ると、光の当たった部分が高温になって溶けたり、やけどや火災の原因になります。また、反射した光でレンズ部が高温になり、本機の故障の原因になることがあります。投写を中断するときは、本機の電源を切ってください。



本機を標高1,500 m以上の場所で使用するときは、[設置] メニューの[高地モード] を[オン] にして、本機の内部温度が適切に調節されるようにしてください。

☞ [設置] > [高地モード]

▶ 関連項目

- 「動作メニュー」 [p.82](#)

使用後にプロジェクターの電源を切ります。



本機を長くお使いいただくために、使用しないときは本機の電源を切ってください。光源の寿命は、環境条件や使用状況によって異なります。投写映像の明るさは、使用時間の経過にともなって低下します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの電源を切る（スリープ）」 [p.33](#)
- ・「プロジェクターの電源を切る（シャットダウン）」 [p.33](#)

プロジェクターの電源を切る（スリープ）

- 1** プロジェクターの電源ボタン、またはリモコンの【Standby】ボタンを押します。

光源がオフになり、インジケーターが消灯します。本機はスリープモードに入ります。



プロジェクターがスリープモードのときでも制御できるようにするには、[システム] メニューから [電源と節電設定] を選択し、[消費電力モード] を [高] に設定します。

[高] に設定すると待機電力は増加し、スリープ状態でもファンが回転し続けます。

- 2** 本機を搬送または保管するときは、インジケーターが消灯していることを確認してから電源コードを抜いてください。

プロジェクターの電源を切る（シャットダウン）

本機を使用していないとき、消費電力を抑えるには、リモコンで本機の電源を完全にオフにします。



シャットダウンモードでは、スリープモードよりも消費電力が少なくなります。ただし、次回電源を入れたときの起動時間は、スリープモードよりも長くなります。

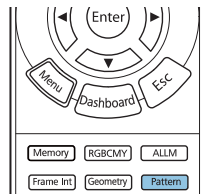
- 1** 本機の電源ボタンまたはリモコンの【Standby】ボタンを長押しします。
- 2** リモコンを使ってシャットダウン確認画面で [OK] を選択します。光源がオフになり、インジケーターが消灯します。本機はシャットダウンモードに入り、消費電力が抑えられます。
- 3** 本機を搬送または保管するときは、インジケーターが消灯していることを確認してから電源コードを抜いてください。

テストパターンを表示させて、投写映像を調整できます。



テストパターン表示中には調整できない項目があります。これらの項目は、映像機器から実際に映像を投写して調整してください。

- 1** 本機の電源を入れます。
- 2** リモコンの【Pattern】ボタンを押します。



テストパターンは「設置」メニューからも表示できます。

- 3** 【Geometry】ボタンを押して、映像を調整します。
- 4** 【Esc】ボタンを押すと、テストパターン表示を終了します。

プロジェクターの設置方法によって、設置モードを変更します。

- [フロント]：机上に設置して、スクリーンの正面から投写します。
- [フロント・天吊り]：天吊り設置して、映像を上下反転して投写します。
- [リア]：リアスクリーンの裏側から映像を左右反転して投写します。
- [リア・天吊り]：天吊りまたは壁掛け設置して、リアスクリーンの裏側から映像を上下左右反転して投写します。

▶ 関連項目

- 「メニューから設置モードを変更する」 [p.35](#)
- 「プロジェクターの設置・取り付け」 [p.18](#)

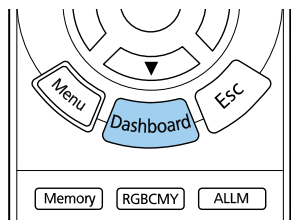
4 お使いの環境に合わせた設置モードを選択して、【Enter】ボタンを押します。

5 【Esc】ボタンを押すと、前の画面に戻ります。【Menu】ボタンを押すとメニューを終了します。

メニューから設置モードを変更する

メニューから設置モードを変更して、映像を上下左右反転します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの【Dashboard】ボタンを押して、[設置] メニューを表示します。



- 3** 以下の順序でメニューを選択します。

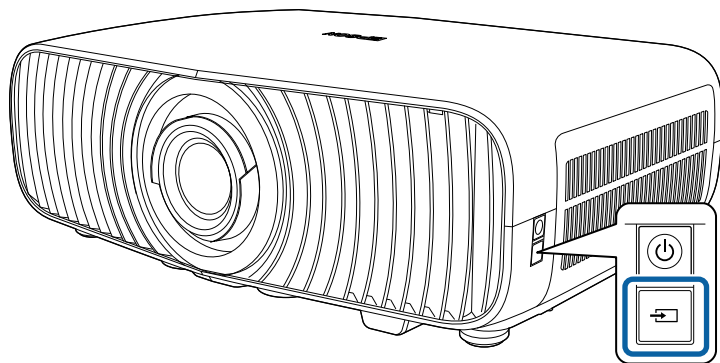
☞ [設置] > [設置モード]

コンピューターやメディアプレーヤーなど複数の機器をプロジェクターに接続しているときは、投写する映像を切り替えます。

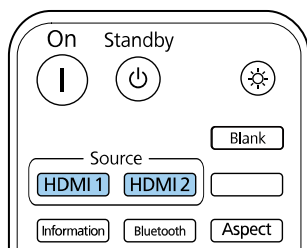


映像が表示されないときは、本機とビデオ機器が正しく接続されていることを確認してください。

- 1** 接続機器の電源が入っていることを確認します。
- 2** ビデオ機器の映像を表示するときは、Blu-rayなどのメディアを挿入して再生します。
- 3** 次のいずれかの操作を行います。
 - 目的の機器からの映像が表示されるまで、プロジェクターの【Source】ボタンを押します。



- リモコンで、投写したい入力ソースのボタンを押します。



本機を投写面に対して平行に設置できない場合や、映像の位置を調整したいときは、レンズシフト機能を使って映像の位置を上下左右に移動します。

注意

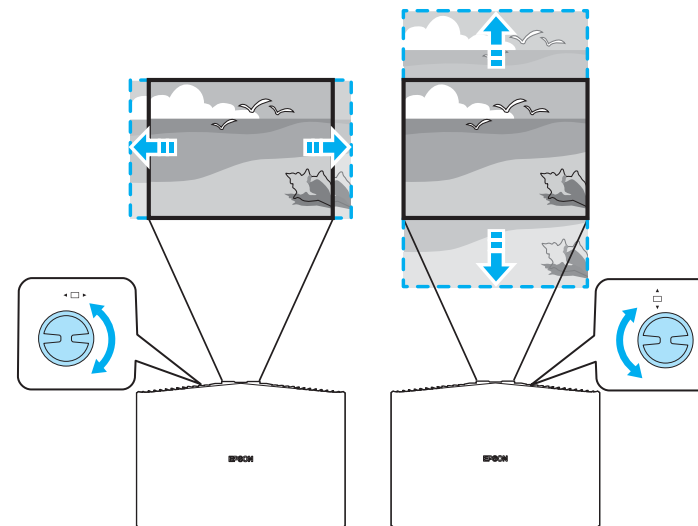
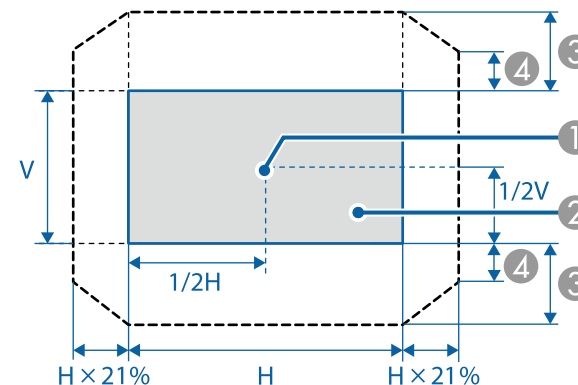
画面の位置を上下方向に調整するときは、画面を下から上に移動して調整してください。上から下に移動して終了すると、画面の位置が少し下がる場合があります。



- プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しません。映像のサイズ調整、ピント調整、レンズシフトによる位置調整は、投写開始から30分以上たってから行ってください。
- レンズの位置がレンズシフト調整可能範囲の中心にあるときに、映像が最も鮮明になります。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 上下レンズシフトダイヤル、左右レンズシフトダイヤルを回して、映像の位置を調整します。



- ① レンズの中心
- ② レンズシフト調整可能範囲の中心に投写された画像

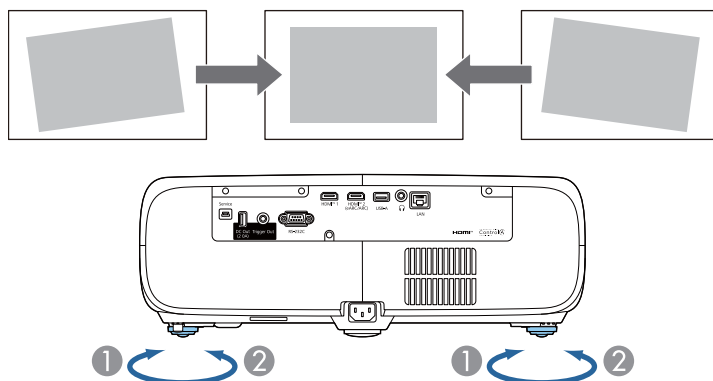
- ③ 最大可動領域： $V \times 59\%$
- ④ 左右方向が最大値の場合： $V \times 15\%$



上下方向に最大まで移動した場合は左右に移動できません。
レンズシフト調整可能範囲は目安の値です。

机上に設置したときに、投写映像が水平方向に傾いている（左右で高さが違う）ときは、フロントフットで本機が水平になるように調整します。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 映像が傾いているときは、フロントフットを回して左右の高さを調整します。

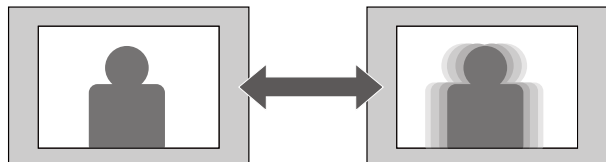


- 1 フットを伸ばす
- 2 フットを縮める

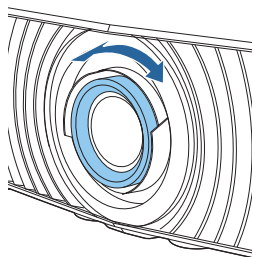
約2度まで角度を調整できます。

投写映像がゆがむときは、映像の形状を補正します。

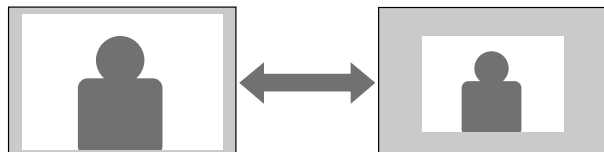
ピントのずれを手動で補正します。



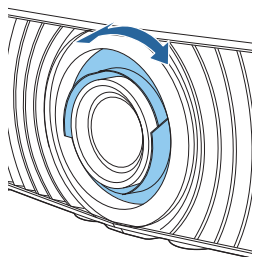
- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** フォーカスリングを回して画面全体の焦点を合わせます。



手動で映像の大きさを調整できます。



- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** ズームリングを回して画面サイズを設定します。



スクリーンの正面にプロジェクターを設置して、水平にすることで、傾きやゆがみのない映像を投写できます。スクリーンに対して斜めにプロジェクターを設置したり、上下に傾けて設置したりしたときは、映像の形状を補正します。

補正後は、映像が少し小さくなります。

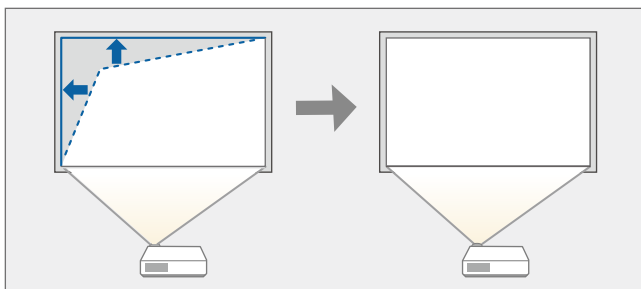
投写映像の画質を維持するためには、プロジェクターの設置位置を調整して映像サイズや形状を調整することをお勧めします。

▶ 関連項目

- 「Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する」 [p.42](#)
- 「ポイント補正で映像のゆがみを補正する」 [p.43](#)

Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する

「Quick Corner」機能を使用して、映像のゆがみと大きさを補正します。



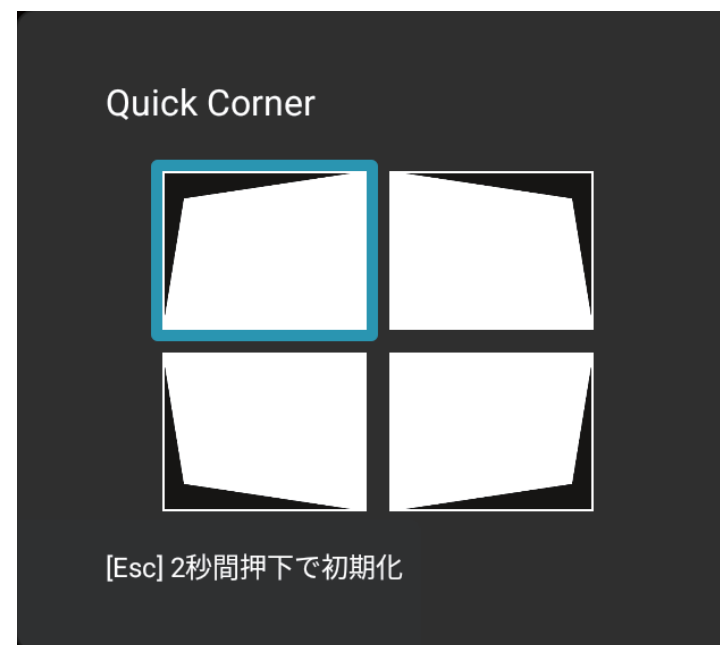
- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの【Geometry】ボタンを押して「幾何学歪み補正」画面を表示します。
[設置] > 「幾何学歪み補正」からも表示できます。

- 3** 「Quick Corner」を選択し、【Enter】ボタンを押します。



エリア選択画面が表示されます。

- 4** 上下左右ボタンを押して調整するコーナーを選択し、【Enter】ボタンを押します。



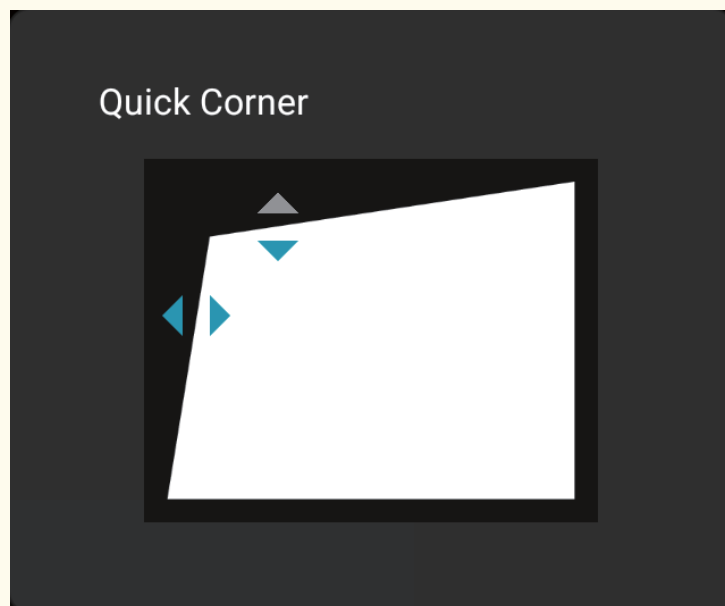


「Quick Corner」で補正した結果を初期化するには、エリア選択画面が表示されているときに【Esc】ボタンを約2秒間押し、「はい」を選択します。

- 5** 上下左右ボタンを押して、映像の形状を調整します。
【Esc】または【Enter】ボタンを押すと、エリア選択画面に戻ります。



以下の画面で、グレーの三角形で示される方向にはこれ以上調整できません。

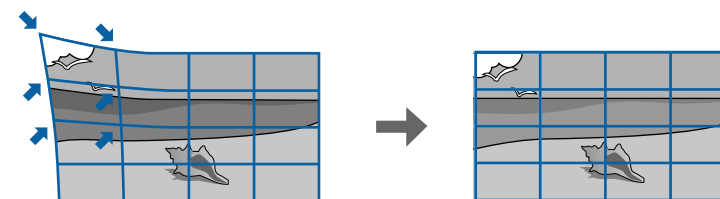


- 6** 手順4と5を繰り返して、調整が必要なすべてのコーナーを調整します。

- 7** 終了したら、「幾何学歪み補正」画面に戻って【Esc】ボタンを押して、メニューを終了します。

ポイント補正で映像のゆがみを補正する

「ポイント補正」機能を使用して部分的に発生するわずかなゆがみを補正します。投写画像を格子で区切り、格子の交点を上下左右に移動させることで投写画面のゆがみを補正します。



- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの【Geometry】ボタンを押して「幾何学歪み補正」画面を表示します。
「設置」 > 「幾何学歪み補正」からも表示できます。
- 3** 「ポイント補正」を選択して【Enter】ボタンを押します。



- 4** 矢印ボタンを押して補正するポイント数を選択し、【Esc】ボタンを押します。



格子が見えにくいときは、【Esc】ボタンを押して、[ポイント補正] メニューの [パターン色] で色を変更します。

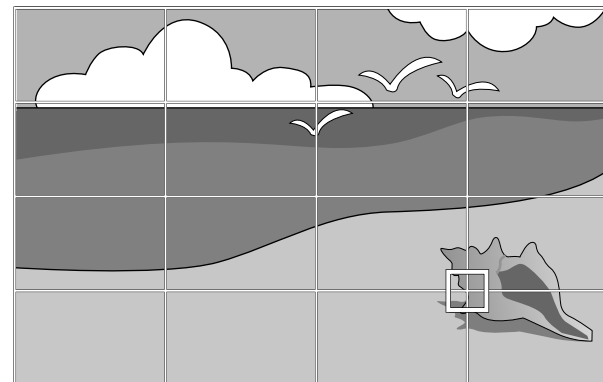


- 5** [ポイント補正] を選択し、【Enter】ボタンを押します。

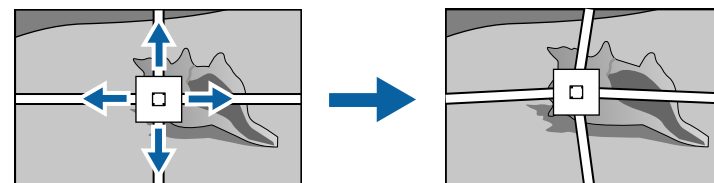


[Quick Corner] で映像のゆがみと大きさを大まかに補正し、[ポイント補正] で細かく調整します。

- 6** 上下左右ボタンを押して補正するポイントを選択し、【Enter】ボタンを押します。



- 7** 上下左右ボタンで映像のゆがみを補正します。



- 8** 続けて他のポイントを補正する場合は、【Esc】ボタンを押して前の画面に戻り、手順6、7を行います。

- 9** 終了したら【Esc】ボタンを2度押して、一つ前の画面に戻ります。



- [ポイント補正] で補正した結果を初期化するには、[幾何学歪み補正] で [初期値に戻す] を選択します。

▶ 関連項目

- 「Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する」 [p.42](#)

本機はさまざまな縦横比（アスペクト比）で映像を表示できます。通常は、接続機器からの入力信号によって映像のアスペクト比が決まります。映像をスクリーンに合わせるために、手動でアスペクト比を切り替えることもできます。

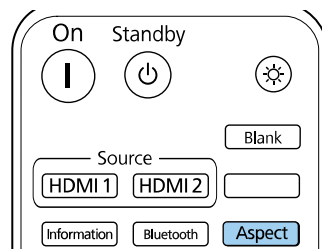
▶ 関連項目

- 「映像のアスペクト比を切り替える」 [p.45](#)
- 「アスペクトモードの種類」 [p.45](#)

映像のアスペクト比を切り替える

投写する映像のアスペクト比を切り替えます。

- 1 本機の電源を入れて、投写する機器の映像に切り替えます。
- 2 リモコンの【Aspect】ボタンを押します。



- 3 入力信号に合わせて、お好みのアスペクト比を選択します。
- 4 【Esc】ボタンを押して終了します。



選択できるアスペクトモードは、接続機器からの入力信号によって異なります。

アスペクトモードの種類

接続機器からの入力信号に応じて、以下のアスペクト比を選択できます。



著作権法で保護されている映像をアスペクト機能で圧縮、引き伸ばし、分割などを行い、営利目的で公衆に視聴させた場合は、著作権者の権利を侵害するおそれがあります。

アスペクトモード	説明
自動	入力信号によってアスペクト比が自動的に設定されます。
スーパーズーム	映像を拡大表示します。上下左右の端が欠けます。
フル	入力信号のアスペクト比を維持せずに、投写エリア全体に映像を表示します。
アナモフィック	市販のアナモフィックレンズを使用して、2.40:1のアスペクト比で映像を表示します。
Hスクイーズ	市販のアナモフィックレンズ使用時に、通常の16:9のアスペクト比で表示するよう、映像を横方向に圧縮します。

本機は投写環境や映像の種類に応じて、明るさ、コントラスト、色を最適化するためのカラーモードを用意しています。環境や映像の種類に合ったカラーモードを選択できます。

▶ 関連項目

- ・「カラーモードを変更する」 [p.46](#)
- ・「カラーモードの種類」 [p.46](#)

カラーモード	説明
ナチュラル	色を忠実に再現します。映像の色調整を行いたい場合に適しています。

カラーモードを変更する

カラーモードを変更して、映像を最適化します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの【Picture Mode】ボタンを押す。
- 3** お好みのカラーモードを一覧から選択します。
- 4** 【Esc】ボタンを押してメニューを終了します。

カラーモードの種類

投写環境や映像の種類に応じて、以下のカラーモードを設定できます。

カラーモード	説明
ダイナミック	最も明るいモードです。明るさを優先したい場合に適しています。
ビビッド	色鮮やかにさまざまなコンテンツを楽しむ場合に適しています。
シネマ	映画などのコンテンツを楽しむのに適しています。

光源の明るさを設定します。



以下の条件のときはこの機能を使用できません。

- 異常が起きているとき

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの【Light Output】ボタンを押して、[レーザーライト出力] 調整ゲージを表示します。
- 3** 矢印ボタンを押して明るさを調整します。
- 4** 【Esc】ボタンを押して終了します。

〔ダイナミックコントラスト〕をオンにすると、映像の明るさに合わせてプロジェクターの光量を自動的に調整することで、コントラストを改善します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの【Dashboard】ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3** ダッシュボードの〔映像詳細設定〕を選択します。
- 4** 〔映像詳細設定〕から〔ダイナミックコントラスト〕を選択します。
- 5** 以下のいずれかを選択します。
 - 〔オフ〕：光量調整を行わないときに選択します。
 - 〔標準〕：標準の光量調整を行います。
 - 〔高速〕：シーンが切り替わったとき、すぐに光量を調整します。
- 6** 【Esc】ボタンを押して、1つ前の画面に戻ります。

あらかじめ用意されている設定を使用して、映像全体の色合いを調整します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの【Dashboard】ボタンを押して、[映像調整] を選択して【Enter】ボタンを押します。
- 3** [詳細設定] > [色温度] から、使用したい色温度を選びます。
- 4** 【Esc】ボタンを押して、前の画面に戻ります。

〔映像調整〕メニューには、現在投写中の入力ソースに応じて画質を調整する設定があります。投写映像の品質と色合いを細かく調整できます。画質の調整について詳しくは、「映像調整と音メニュー」を参照してください。

☛ 〔映像調整と音〕 > 〔映像調整〕

本機には内蔵スピーカーはありません。音声はHDMIで接続した外部のオーディオ機器から出力されます。

リモコンの音量 [+]/[-] ボタンを使って、プロジェクターに接続した外部スピーカーの音量を調整できます。

音量は接続した入力ソースごとに調整する必要があります。



プロジェクターに接続されているAV機器の音量を調整するときは、メニューで [HDMI制御] を [オン] に設定します。

🖱️ [入力] > [入力] > [HDMI制御]

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの音量 [+]/[-] ボタンを押して音量を調整します。
音量調節画面が表示されます。

⚠️ 注意

初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

▶ 関連項目

- 「HDMI CEC機能」 [p.54](#)

プロジェクターの便利な機能

プロジェクターの各機能を使用します。

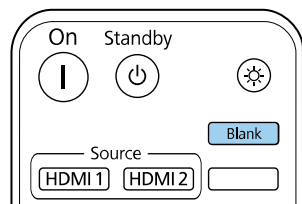
▶ 関連項目

- 「映像を一時的に遮断する」 [p.53](#)
- 「HDMI CEC機能」 [p.54](#)
- 「プロジェクターの設定をメモリーに保存する」 [p.55](#)
- 「プロジェクターを初期化する」 [p.56](#)

投写中の映像と音声を一時的に遮断します。



1 リモコンの【Blank】ボタンを押して、投写映像を遮断します。



2 投写を再開するときは、再度【Blank】ボタンを押します。



遮断中も映像は進んでいるため、遮断した場面から投写を再開することはできません。

本機のHDMI端子にHDMI CEC規格に対応したAV機器を接続すると、接続機器同士の連携動作が本機のリモコンで操作できます。

▶ 関連項目

- 「HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する」 [p.54](#)

HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する

HDMI CEC機能を使って、HDMI経由で接続された機器を本機のリモコンで操作します。



- 接続機器側の設定も必要です。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI CEC規格に対応していても動作しない接続機器や、動作しない機能があります。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ケーブルがHDMIの規格に対応していないと動作しません。

1 リモコンの【Menu】ボタンを押します。

2 以下の順序でメニューを選択します。
☛ [入力] > [入力] > [HDMI制御]

3 [HDMI制御] をオンにします。

4 必要に応じて、以下の項目を設定します。

- [デバイスの自動電源オフ]：本機の電源オフに連動して、接続機器の電源を切るときはオンに設定します。
- [プロジェクターの自動電源オン]：接続機器の電源オンに連動して、本機の電源を入れるときはオンにします。

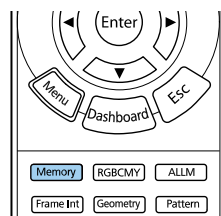
5 【Menu】ボタンを押してメニューを終了します。

本機のリモコンを使って接続機器の再生、停止、音量調整などの操作ができます。

投写映像の設定値をメモリーに登録して、いつでも必要なときに呼び出すことができます。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの【Memory】ボタンを押します。



[メモリー] 画面が表示されます。

3 [画質メモリー] から次のいずれかを選択します。



- 以下を保存できます。
 - カラーモードごとに調整した [映像調整] メニューの設定
 - メモリー保存時の カラーモードは、メモリー名の右側に表示されます。

- [メモリー保存]：現在の設定を本機のメモリーに保存します（10件まで保存できます）。



すでに保存済みのメモリー名はマークで表示されます。保存済みのメモリー名を選択したときは、保存内容を消去して、現在の設定と置き換えます。

- [メモリー呼出]：保存したメモリーを呼び出し、現在の設定と置き換えます。
- [メモリー名称変更]：メモリー名を変更します。
- [メモリー削除]：選択したメモリーを消去します。
- [初期化]：メモリーを初期化します。

4 【Menu】ボタンまたは【Esc】ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターの設定をメモリーに保存する」 [p.55](#)
- 「設置メニュー」 [p.79](#)

本機のすべての設定を初期化することができます。



初期化を行うと、インストールされているアプリ、プロジェクターのメニュー設定内容などはすべて消去されます。消去したくない情報はメモしておくことをお勧めします。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの【Menu】ボタンを押し、以下の順でメニューを選択します。
☞ [システム] > [デバイス情報] > [リセット] > [出荷時設定にリセット]
- 3** 画面の指示に従って、初期化を開始します。

ネットワーク上のプロジェクターを使用する

ネットワーク経由でプロジェクターから映像を投写するための設定について説明します。

▶ 関連項目

- 「有線LANに接続する」 [p.58](#)
- 「無線LAN接続」 [p.60](#)

ネットワーク経由でプロジェクターを監視、制御することができます。ネットワーク機能を使用するには、プロジェクターをネットワークに接続し、プロジェクターおよびコンピューターのネットワーク設定をします。



「IP制御」を初めてオンにするときに、「Web制御パスワード」が設定されていない場合は、パスワードの設定を求められます。画面の指示に従ってパスワードを設定してください。

▶ 関連項目

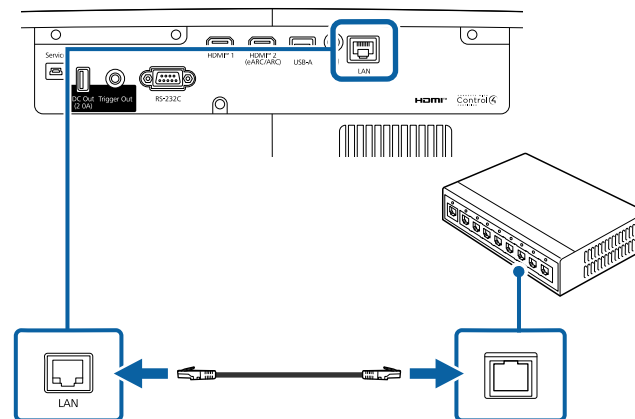
- 「有線LANに接続する」 [p.58](#)
- 「有線LANを設定する」 [p.58](#)

有線LANに接続する

プロジェクターを有線LANに接続するには、100Base-TXネットワークケーブルを使用します。誤作動防止のために、カテゴリ5以上のシールド付きケーブルをお使いください。

- 1** LANケーブルをネットワークハブ、スイッチ、またはルーターに接続します。

- 2** ケーブルのもう一方のコネクターをプロジェクターのLAN端子に接続します。



有線LANを設定する

ネットワーク経由でコンピューターの映像を投写するには、事前にプロジェクターのネットワーク設定が必要です。



設定の前に、LAN端子にLANケーブルを接続し、プロジェクターを有線LANに接続してください。

- 1** 【Menu】 ボタンを押し、「ネットワーク」を選択して、【Enter】 ボタンを押します。
- 2** 「ネットワーク」メニューの「有線LAN」から、必要に応じて基本設定を選択します。
 - 「プロキシ設定」では、「プロキシのホスト名」、「プロキシポート」、および「プロキシをバイパス」を入力できます。

- [IP設定] では、[DHCP] や [IPアドレス]、[ゲートウェイ] などの静的情報を設定できます。



名前およびパスワードの入力には、表示されたソフトキーボードを使用します。リモコンの矢印ボタンで文字を選択状態にし、【Enter】ボタンを押して決定します。

- 3** 【Menu】ボタンを押してメニューを終了します。

無線ネットワーク経由で、ファームウェア更新を含むプロジェクターの操作ができます。



「[IP制御]」を初めてオンにするときに、「[Web制御パスワード]」が設定されていない場合は、パスワードの設定を求められます。画面の指示に従ってパスワードを設定してください。

▶ 関連項目

- 「内蔵の無線LANユニットを安全にお使いいただくために」 [p.60](#)
- 「プロジェクターの無線LANを設定する」 [p.60](#)

内蔵の無線LANユニットを安全にお使いいただくために

以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

⚠ 警告

- 心臓ペースメーカー等の医療機器を装着している方は、製品に近づかないでください。また、製品を取り扱うときは、近くに心臓ペースメーカー等の医療機器を装着している方がいないことを確認してください。電磁妨害が生じ、医療機器が誤動作する可能性があります。
- 自動ドアや火災報知機などの自動制御機器の近くで使用しないでください。電磁妨害による誤動作や事故の原因となります。

⚠ 注意

製品から20cm以上離れてお使いください。体調不良の原因となります。

プロジェクターの無線LANを設定する

- 1** リモコンの【Menu】ボタンを押して、「[ネットワーク]」メニューを表示します。
- 2** 「[Wi-Fi]」を「[オン]」に設定します。
- 3** お使いになるWi-Fiを選択して、必要であればパスワードを入力します。

▶ 関連項目

- 「Windowsで無線LANを設定する」 [p.60](#)
- 「Macで無線LANを設定する」 [p.61](#)

Windowsで無線LANを設定する

コンピューターとプロジェクターを接続するには、コンピューターで無線LAN設定をします。

- 1** Windowsタスクバーのネットワークアイコンをクリックし、無線ユーティリティソフトウェアを起動します。
- 2** 無線LANアクセスポイント経由で接続するときは、Wi-Fiがオンに設定されていることを確認し、プロジェクターが接続しているネットワークのネットワーク名（SSID）を選択します。
- 3** 「[接続]」をクリックします。

Macで無線LANを設定する

コンピューターとプロジェクターを接続するには、コンピューターで無線LAN設定をします。

- 1** 画面上部にあるメニューバーのWi-Fiアイコンをクリックします。
- 2** 無線LANアクセスポイント経由で接続するときは、Wi-Fiがオンに設定されていることを確認し、プロジェクターが接続しているネットワークのネットワーク名（SSID）を選択します。

プロジェクターを監視および制御する

ネットワーク経由でプロジェクターの監視と制御を行う方法について説明します。

▶ 関連項目

- 「Webブラウザを使ってネットワークプロジェクターを制御する」 [p.63](#)
- 「PJLinkについて」 [p.67](#)
- 「Crestron Homeについて」 [p.68](#)
- 「Matterについて」 [p.69](#)

コンピューターのWebブラウザーを使って、ネットワークに接続されたプロジェクターのメニュー設定や制御ができます。遠隔からの操作に適しています。



- [IP制御] を初めてオンにするときに、[Web制御パスワード] が設定されていない場合は、パスワードの設定を求める画面が表示されます。画面の指示に従って [Web制御パスワード] を設定してください。
- プロジェクターの [ネットワーク] > [プロジェクター制御] > [IP制御] で [IP制御] をオンにすると、パスワードを設定できます。
- ネットワークに接続されたプロジェクターをWebブラウザーで操作するには、ユーザー名 **EPSONWEB** と [Web制御パスワード] を使用して、Epson Web Controlのホーム画面にログインします。ログイン後は、ブラウザーを閉じるまで再度 [Web制御パスワード] を入力する必要はありません。ログインする前に、プロジェクターで [Web制御パスワード] を設定してください。
- コンピューターとプロジェクターをネットワークに接続できる状態にしておきます。
- 以下のWebブラウザーを使用できます。
 - Microsoft Edge (Windows)
 - Safari (Mac、iOS)
 - Google Chrome (Windows、macOS、Linux、ChromeOS)
 - Androidデバイス上のChrome系ブラウザー
- お使いのWebブラウザーで、接続にプロキシサーバーを使用しないように設定してください。メニュー設定の中には、Webブラウザーからは設定できない項目があります。

2 お使いのコンピューターを、接続先のプロジェクターと同じネットワークに接続します。

3 お使いのコンピューターでWebブラウザーを起動します。

4 ブラウザーのアドレス入力部にプロジェクターのIPアドレスとポート番号を入力し、[Epson Web Control] 画面に接続します。

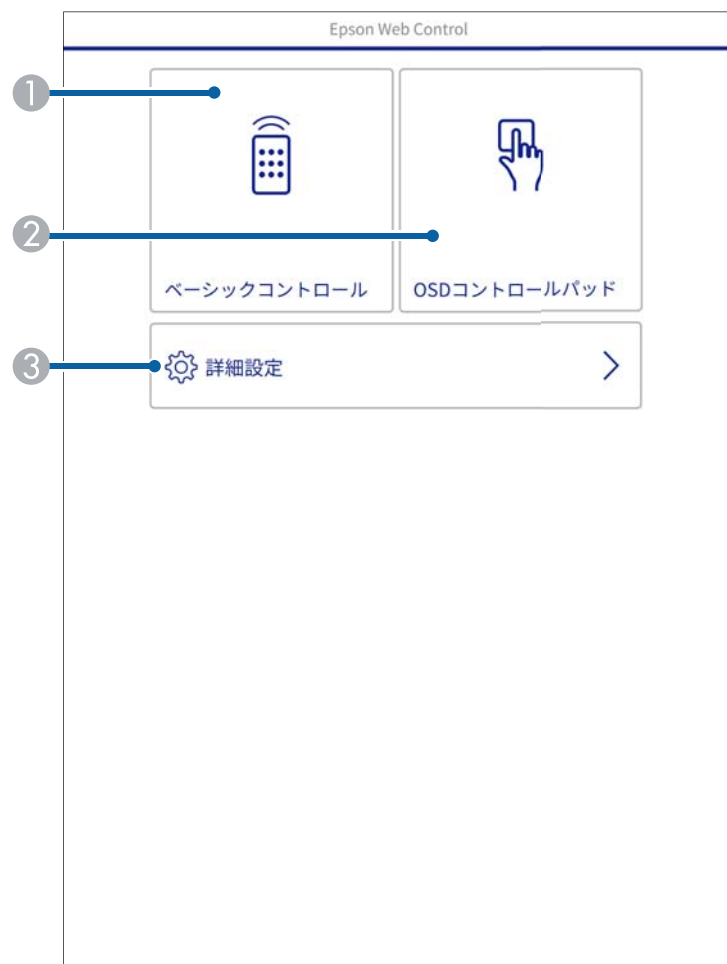
ポート番号は8080(http)/9443(https)を使用します。

例：https://IP address:9443

セキュアな接続を行うためには「https」を使用してください。

[Epson Web Control] 画面が表示されます。

1 本機の電源がオンになっていることを確認します。



- ① 本機をリモート操作します。
- ② タッチまたはクリックしてメニューを操作します。
- ③ 本機の詳細設定をします。

5 操作したい項目を選択します。

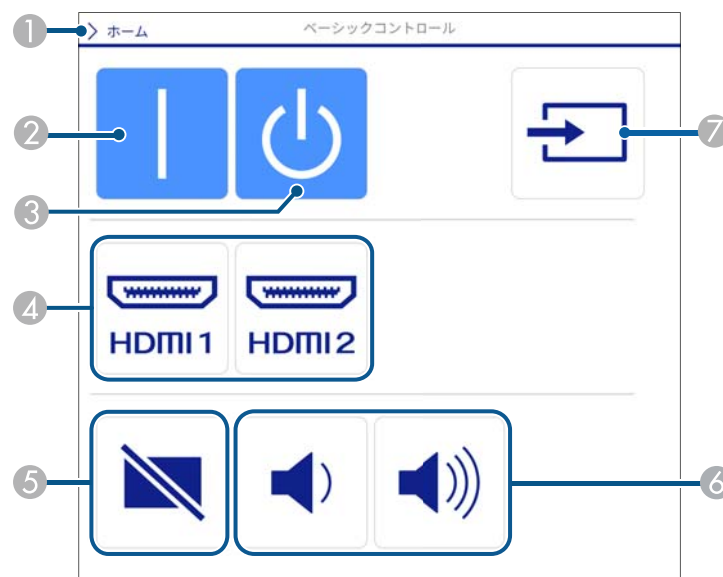
▶ 関連項目

- 「Web Controlのオプション設定」 [p.64](#)

Web Controlのオプション設定

ベーシックコントロール

[ベーシックコントロール] 画面では、入力ソースの選択やプロジェクターの操作ができます。

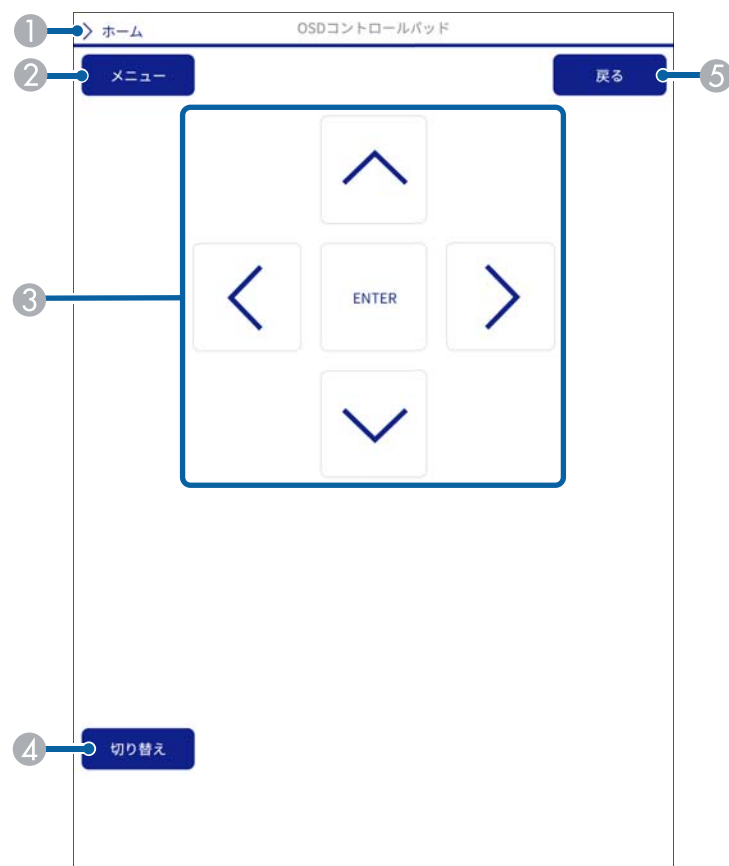
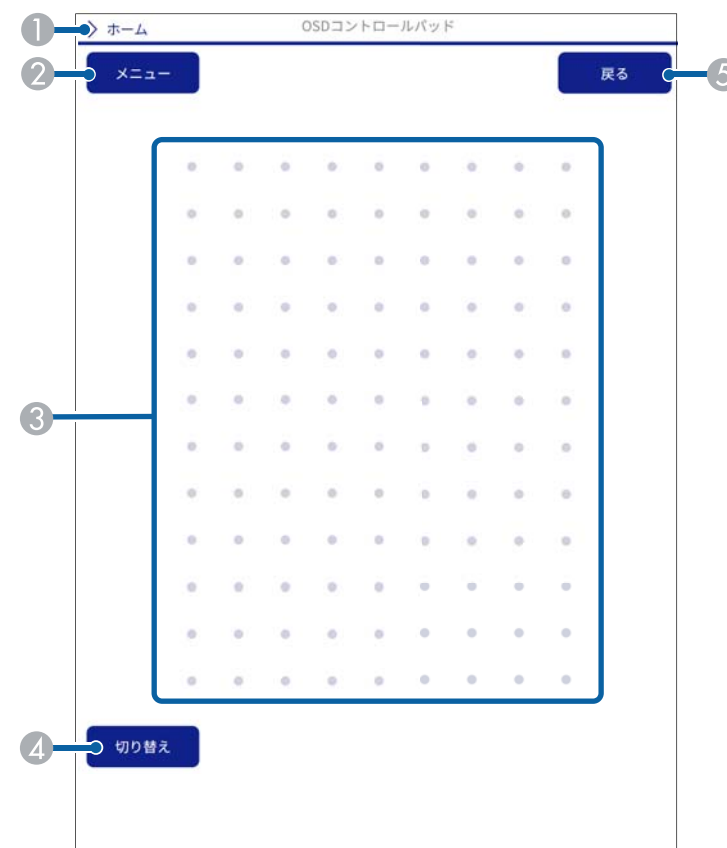


- ① [Epson Web Control] のホーム画面に移動します。
- ② 本機の電源をオンにします。
- ③ 本機の電源をオフにします。

- ④ 入力ソースを選択します。
- ⑤ 映像と音声を一時的に遮断します。
- ⑥ スピーカーの音量を調整します。
- ⑦ 映像の入力を検出します。

OSDコントロールパッド

[OSDコントロールパッド] 画面では、指やマウスでプロジェクターのメニューを操作できます。



- ① [Epson Web Control] のホーム画面に移動します。
- ② 本機のメニューを表示します。
- ③ タッチまたはクリックしてメニューを操作します。
- ④ [OSDコントロールパッド] の表示を切り替えます。
- ⑤ 前のメニュー項目に戻ります。

詳細設定

[詳細設定] 画面では、プロジェクターの詳細設定ができます。



- ① 選択しているメニュー名を表示します。
- ② 本機の設定をします。(設定項目は機種により異なります。)
- ③ 本機の設定をロックまたはアンロックします。
- ④ 本機の設定を更新します。



以下の項目はWebブラウザでは変更できません。

- [シャットダウン タイマー]
- [出荷時設定にリセット]
- [言語]
- [日付&時刻]
- [一括設定]
- [ユーザーボタン]
- [Bluetooth]

JBMIA（一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会）によりネットワーク対応プロジェクターの制御用プロトコルの標準化が進められ、制御用標準プロトコルPJLinkが策定されました。

本機はJBMIAによって策定されたPJLink Class2（バージョン2.10）規格に準拠しています。

PJLinkの検索機能で使用するポート番号は4352（UDP）です。

PJLinkを使用するには、事前にネットワーク設定を行う必要があります。

次のコマンドを除く、PJLink Class2によって規定されているすべてのコマンドに対応しており、PJLink規格の適合性を確認しています。

<http://pjlink.jbmia.or.jp/>

- 非対応コマンド

働き		PJLinkコマンド
ミュート設定	映像ミュート設定	AVMT 11
	音声ミュート設定	AVMT 21

- 入力端子名称および入力ソース番号の対応表

入力端子名称	入力ソース番号
HDMI1	32
HDMI2	33

- 「メーカー名問合せ」で表示するメーカー名

EPSON

- 「機種情報問合せ」で表示する機種名

EPSON EH-LS7000

Crestron Homeは統合コントロールシステムです。ネットワークで接続された複数の機器を一括して監視、制御できます。Crestron Homeを使うと、Webブラウザを使ってプロジェクターの制御や監視ができます。



- Crestron Homeを使用するときは、Epson Projector Managementのメッセージ配信機能を使用できません。

Crestron Homeの詳細については、Crestron社のWebサイトを参照してください。

<https://www.crestron.com/>

本プロジェクターはMatter™に対応しています。

この製品をMatter対応のスマートホームアプリと連携することで、プロジェクターが通常モードまたは映像を投影していないスリープモードのときに、アプリから電源のオン／オフを操作できます。



- Matterを利用する場合は、[消費電力モード] をネットワークに常時接続可能な[高] に設定します。
[高] 以外の設定が選択されている場合、電源がオフの間はスマートホームアプリからのコマンドにプロジェクターが応答しない可能性があります。
🖱️ [システム] > [電源と節電設定] > [消費電力モード]
- プロジェクターがWi-Fiネットワークに接続されていないと、Matterを使用できません。
- 利用できる機能は、使用するスマートホームアプリによって異なります。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの【Menu】ボタンを押します。
- 3** [ネットワーク] から[スマートホーム連携 with Matter] を選択します。
以下の画面が表示されたら、[次へ] を選択します。



- 4** 画面に表示されているQRコードを、スマートフォンまたはタブレットでスキャンします。



- スマートフォンまたはタブレットがWi-Fiネットワークに接続されていることを確認します。
- 画面右上の [i] ボタンを選択すると、バージョン情報が表示され、セットアップの再開を行います。



- 5** プロジェクターをスマートホームアプリに追加します。
- 6** 画面の指示に従って、セットアップします。

メニューの設定

プロジェクターメニューの機能と設定について説明します。

▶ 関連項目

- 「ダッシュボードの使用」 [p.72](#)
- 「プロジェクターメニューを操作する」 [p.74](#)
- 「入力メニュー」 [p.75](#)
- 「映像調整と音メニュー」 [p.76](#)
- 「設置メニュー」 [p.79](#)
- 「ネットワークメニュー」 [p.80](#)
- 「その他のメニュー」 [p.82](#)
- 「メニュー設定を別のプロジェクターにコピーする（一括設定機能）」 [p.84](#)

【ダッシュボード】から、よく使用するメニューにすばやくアクセスできます。

- 1 リモコンの【Dashboard】ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。



名称		働き
①	日付／時刻	現在の日付と時刻を表示します。
②	プロジェクター名	現在使っているプロジェクターの名前を表示します。

名称		働き
③	映像調整	映像調整設定画面を表示し、画質モードや基本的な画質パラメーターを調整できます。
④	動作	動作設定画面を表示し、電源、メニュー、システム動作など、プロジェクターの一般的な動作を設定できます。
⑤	AI Picture Quality	AIPQ設定画面を開き、AIを活用した画質補正機能を有効化または調整できます。
⑥	ユーザーボタン	ユーザーボタン設定画面を表示します。 ガンマ、デジタル出力、ブランキング、Wi-Fiなどのショートカット機能を、リモコンの【User】ボタンに割り当てることができます。
⑦	システム通知領域	ネットワーク経由のアップデートに関する通知が表示されていた場合、選択して【Enter】ボタンを押すと、アップデートアプリケーションが表示されます。
⑧	AIコントラスト	AIコントラスト設定画面を表示し、AI処理を使用したダイナミックコントラストを調整します。
⑨	設置	設置設定画面を開き、投写方向、設置位置、幾何学補正などを設定します。
⑩	映像調整詳細設定	映像調整詳細設定画面を開き、色温度、ガンマなどの詳細な画質調整をします。
⑪	メニュー	全設定メニューを開き、すべてのプロジェクター設定項目の確認や変更ができます。

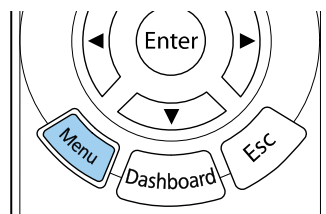
- 2** プロジェクターの上下左右ボタンで、使用するメニューを選択します。

プロジェクターのメニューを使用して、本機の動作を制御する設定を調整できます。メニュー画面を表示します。



メニュー名は予告なく変更されることがあります。
メニュー名は、ファームウェアのバージョンによって異なる場合があります。

1 リモコンの【Menu】ボタンを押します。



名称	機能
入力	お使いのオーディオ機器、映像機器に関する設定ができます。
映像調整と音	映像の画質を調整できます。カラーモードや入力ソースによって設定できる項目が異なります。 また、オーディオ出力設定を使って、外部機器への音声出力方法や、映像と音声のずれを調整することができます。
設置	設置環境に合わせてプロジェクターを設定できます。
動作	さまざまなプロジェクター機能をカスタマイズできます。

名称	機能
ネットワーク	ネットワーク情報の表示、ネットワーク経由で本機を制御するための設定ができます。
プライバシー	プライバシー設定やセキュリティ設定を変更できます。
アプリ	最近使用したアプリや、プロジェクターにインストールされているすべてのアプリを表示します。
メモリー	プロジェクターのメモリーに設定を保存したり、読み込んだりできます。
システム	プロジェクターのさまざまな機能をカスタマイズできます。
Bluetooth	Bluetooth機器をプロジェクターとペアリングしたり、接続や切断したりできます。

2 上下ボタンを押して、メニュー項目を選択します。

3 設定を変更するには、【Enter】ボタンを押します。

4 上下左右ボタンを押して、設定項目を選択します。

5 上下左右ボタンを押して、設定を変更します。

6 設定が終わったら、【Menu】または【Esc】を押してメニューを終了します。

〔入力〕メニューでは、お使いのオーディオ機器、映像機器に関する設定ができます。

設定	選択肢	説明
入力	HDMI1 HDMI2 (eARC/ARC)	HDMI入力端子に接続された映像機器からの信号を受信します。映像にノイズが発生する場合や、映像が表示されない場合は、HDMI入力のEDID設定を変更することで改善することがあります。 EDID設定は、入力ソースを切り替えることなく、各HDMI入力ごとに個別に設定できます。 〔HDMI EDIDバージョン〕でEDIDのバージョンを選択できます。
	HDMI制御	〔オン〕に設定すると、プロジェクターのリモコンからHDMI接続機器を操作できます。
	デバイスの自動電源オフ	〔オン〕に設定すると、プロジェクターの電源オフに連動して、接続機器の電源をオフにできます。
	プロジェクターの自動電源オン	〔オン〕に設定すると、接続機器の電源オンに連動して、プロジェクターの電源をオンにできます。
	CECデバイスリスト	現在接続され検出されている機器を一覧表示します。

〔映像調整と音〕メニューでは、投写映像の画質を調整できます。画像モードや入力ソースによって設定できる項目が異なります。

〔オーディオ出力〕の設定を使って、外部機器への音声の出力方法を選択したり、音声と映像の同期ずれを調整したりすることもできます。

設定	選択肢	説明
映像調整	画像モードの一覧を参照	投写映像の画質を調整できます。
画面	アスペクト	映像のアスペクト比（縦横比）を設定します。（入力ソースがHDMIのときのみ設定できます。）
オーディオ出力	デジタル出力	外部のオーディオ機器に音声を出力するときの出力形式を選択します。
	デジタル出力の遅延	映像と音声のずれを補正します。音声が高いときは、値を高くします。
	Bluetoothの遅延	Bluetooth機器へ音声を出力する際の音声遅延を調整します。音声と映像のずれが気になる場合に使うと、同期を補正できます。

▶ 関連項目

- ・ 「映像調整メニュー」 [p.76](#)

映像調整メニュー

〔映像調整〕メニューでは、投写映像の画質を調整できます。

設定	選択肢	説明
画像モード	ダイナミック ビビッド シネマ ナチュラル	一覧からお好みの画像モードを選択します。
レーザーライト出力	レベル調整	光源の明るさを設定します。 使用する環境の温度が高いなどの理由で光源の明るさが低下している場合は、明るさを調整することはできません。
明るさ	レベル調整	映像の明るさを調整します。
コントラスト	レベル調整	映像のコントラストを調整します。
彩度	レベル調整	映像の鮮やかさを調整します。
色合い	レベル調整	映像の色合いを調整します。
シャープネス	レベル調整	映像のシャープ感を調整します。
詳細設定	—	詳細は下表をご覧ください。
デフォルトに戻す	—	映像調整メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

▶ 関連項目

- ・ 「映像詳細設定」 [p.77](#)

映像詳細設定

設定	選択肢	説明
色温度	寒色 標準 暖色	映像の「色温度」を設定します。 「寒色」を選択すると青みがかった映像になります。 「暖色」を選択すると赤みがかった映像になります。
HDR	オン オフ	「HDR」を有効または無効に設定します。「オン」に設定すると、映像のコントラストを拡張し、暗部から明部までを見やすく表示します。 「オフ」に設定すると、通常のコントラストで表示します。
DNR	OFF 低 中 強	映像のざらつきを抑えます。
MPEG NR	OFF 低 中 強	MPEG形式の映像のざらつきを抑えます。
ダイナミックコントラスト	OFF 標準 高速	映像の明るさに合わせて投写時の光量を調整します。
シーン適応ガンマ補正	OFF 低 中 強	シーンに応じて階調表現を最適化して、メリハリのある映像にします。 コントラストを強調したいときは、大きい値を選択します。

設定	選択肢	説明
ダイナミックカラーブースター	OFF 低 中 高	シーンに応じて彩度を自動で調整し、投写映像を鮮やかにします。
ガンマ	暗 標準 明	映像の発色を調整します。
ゲームモード	オン オフ	ゲームモードは、入力遅延を低減することを優先した表示モードです。 「オン」に設定すると、入力遅延を低減した動作になります。 「オフ」に設定すると、画質を重視した動作になります。 <div> 「ゲームモード」は「ALLM」が「オフ」の時に設定できます。</div>
ALLM	オン オフ	「ALLM」を「オン」に設定すると、接続機器の信号に応じて入力遅延を抑える低遅延動作に自動で切り替わります。このとき、「フレーム補間」などの一部の画像処理は制限される場合があります。 「ALLM」を「オフ」に設定すると、入力機器やコンテンツに応じた低遅延モード（「ゲームモード」）への自動切り替えは行われません。表示モード（「ゲームモード」など）は、現在ユーザーが手動で選択している設定で動作します。

設定	選択肢	説明
フレーム補間	OFF 低 中 高 ユーザー	映像の動きの滑らかさを調整します。
	ブレ補正	高速に動く被写体をよりクリアに表示するために、ブレ補正を段階的に調整します。
	揺れ補正	低フレームレートのコンテンツに中間フレームを挿入して動きを滑らかにするために、揺れ補正のレベルを段階的に調整します。
HDMI RGB レンジ	自動 フル 制限	HDMI端子に接続された機器の設定に合わせて、本機のビデオレベルを設定します。
色空間	自動 sRGB/BT.709 BT.2020 Adobe RGB DCI	色空間の変換方式を設定します。
AISR	OFF 低 中 高	AI技術による画像解析を活用して、映像のシャープ感を強調します。
バンディングリダクション	OFF 低 中 高	映像のバンディングノイズを軽減します。

設定	選択肢	説明
ブルーライト低減	OFF 低 中 高	投写映像のブルーライトを低減します。
カラーチューナー	有効にする 色調 彩度 明るさ オフセット ゲイン	色設定を細かく調整して、映像の色再現性を高めます。 [カラーチューナー] を有効にするには、[有効にする] を [オン] に設定します。 [色調]、[彩度]、[明るさ] の各設定で、R (赤)、G (緑)、B (青)、C (シアン)、M (マゼンタ)、Y (黄)、および [肌のトーン] を個別に調整します。 オフセット、ゲインをR (赤)、G (緑)、B (青) の成分ごとに調整します。
AIPQ	オン オフ	AI技術による画像解析を活用して、映像の画質を適正に補正します。
AIコントラスト	OFF 低 中 強	AI技術を使って、映像のコントラスト感を向上する処理を行います。

〔設置〕メニューでは、プロジェクターの設置環境に合わせた設定ができます。

設定	選択肢	説明
テストパターン	—	映像のピントやズーム、映像のゆがみを調整できるように、テストパターンを表示します。
設置モード	フロント フロント・天吊り リア リア・天吊り	映像が正しい方向で投写されるように、スクリーンに対する本機の設置方法を選択します。
幾何学歪み補正	Quick Corner	投写画面のコーナーの形状を個別に補正します。
	ポイント補正	投写画像を格子で区切り、格子の交点を上下左右に移動させることで投写画面のゆがみを補正します。
	初期値に戻す	選択した設定を初期値に戻します。
ブランキング	上 下 左 右	設定した領域の映像を非表示にします。
高地モード	オン オフ	標高約1,500 m以上の場所で本機を使用できるように動作を制御します。

▶▶ 関連項目

- ・「設置モードを変更する」 [p.35](#)
- ・「プロジェクターの設置・取り付け」 [p.18](#)
- ・「映像の形状を補正する」 [p.42](#)

〔ネットワーク〕メニューでは、ネットワーク情報の表示、ネットワーク経由で本機を使うための設定ができます。

設定	選択肢	説明
Wi-Fi	オン オフ	〔オン〕に設定すると、無線接続が有効になります。利用可能なネットワークが表示されます。
新しいネットワークを追加	SSID	SSIDを入力することで、無線ネットワークを手動で追加できます。また、詳細な接続設定を調整することも可能です。
常にスキャン	オン オフ	Wi-Fiがオフの場合でも周囲のネットワークをスキャンし、利用可能なネットワークをすばやく検出できます。
有線LAN	接続されている場合： 接続済み 接続されていない場合：未接続 プロキシ設定 IP設定	有線ネットワークの接続状況を表示し、Ethernetのプロキシ設定やIP設定を構成できます。

設定	選択肢	説明
プロジェクター制御	IP制御	〔オン〕にすると、IPベースのコマンドを使ってネットワーク経由でプロジェクターを制御できるようになります。 IPコントロールを利用する場合は、〔消費電力モード〕をネットワークに常時接続可能な〔高〕に設定してください。 〔高〕以外に設定されている場合、プロジェクターがスタンバイ状態の時は、プロジェクターを制御できない場合があります。
	Web制御パスワード	半角英数字で8～32文字まで入力できます。（*：スペースは使用不可） Web制御で本機の設定や制御をするときの認証用パスワードを設定します。（ユーザー名は EPSONWEB です。デフォルトのパスワードは設定されていません。）
	コマンド通信	コマンド通信を行う際の認証方法を選択します。 〔Web制御パスワード〕を使ってダイジェスト認証を行うときは、〔プロテクト〕に設定します。 〔Monitorパスワード〕を使って平文認証を行うときは〔互換〕に設定します。 スイッチャーやコントローラーを組み合わせるときは、〔互換〕を選択してください。

設定	選択肢	説明
	Monitorパスワード	半角英数字で8～32文字まで入力できます。(*:スペースは使用不可) スイッチャーやコントローラーを組み合わせるときは、パスワードを入力します。[Monitorパスワード] はスイッチャーやコントローラーで使用するパスワードと一致させます。
	ベーシックコントロール	Epson Web Controlの[ベーシックコントロール] で本機の制御をするときは、[オン] に設定します。
	PJLink	PJLink機能を使うときは、[オン] に設定します。
	AMX Device Discovery	[オン] に設定すると、[AMX Device Discovery] を使用して本機の検出ができます。
	Control4 SDDP	[オン] にすると、Control4 SDDP (Simple Device Discovery Protocol) を使って本機の情報を送信します。

設定	選択肢	説明
スマートホーム連携 with Matter	-	<p>本プロジェクターはMatter™に対応しています。</p> <p>アプリから本機の電源のオン/オフの操作が可能です。</p> <p>Matterを利用する場合は、[消費電力モード] をネットワークに常時接続可能な[高] に設定します。</p> <p>[消費電力モード] が[高] 以外に設定されている場合、本機の電源がオフのときは、スマートホームアプリからの操作に応答しない場合があります。</p> <p>☛ [システム] > [電源と節電設定] > [消費電力モード]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <p>利用できる機能は、使用するスマートホームアプリによって異なります。</p> </div>

その他のメニューでは、本機に関するさまざまな設定ができます。

▶ 関連項目

- 「動作メニュー」 [p.82](#)
- 「メモリーメニュー」 [p.82](#)
- 「プライバシーメニュー」 [p.83](#)
- 「アプリメニュー」 [p.83](#)
- 「システムメニュー」 [p.83](#)
- 「Bluetoothメニュー」 [p.83](#)

動作メニュー

〔動作〕メニューでは、プロジェクターの各種設定ができます。

設定	選択肢	説明
メッセージ表示	オン オフ	〔オン〕にすると、入力ソース名、画像モード名、アスペクト比、映像信号が入力されていないときのメッセージや高温警告などのメッセージが投写画面に表示されます。
液晶アライメント	液晶アライメント 調整色 パターン色 初期化	液晶パネルの画素の色ずれを補正します。 〔液晶アライメント〕を〔オン〕にすると、「次へ」のボタンが表示されます。ボタンをクリックして、調整を開始します。
インジケーター表示	オン オフ	〔オフ〕に設定すると、異常時や警告時以外は本機のインジケーターを消灯します。

設定	選択肢	説明
トリガーアウト	オフ 電源連動 アナモフィック連動	外部機器に本機の電源の状態（オン/オフ）などを伝えるため、電源が入っている間、Trigger Out端子から12Vの信号（最大200mA）が出力されます。 〔アナモフィック連動〕を選択すると、Trigger Out端子からは〔アスペクト〕が〔アナモフィック〕、または〔Hスクイーズ〕のときに信号が出力されます。 <div>  トリガーアウトの設定変更は、電源を入れたときに反映されます。 </div>
ユーザーボタン	—	以下の機能から、リモコンにお好みの機能を割り当てることができます。 <ul style="list-style-type: none"> • 〔ガンマ〕 • 〔デジタル出力〕 • 〔ブランキング〕 • 〔Wi-Fi〕

▶ 関連項目

- 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.31](#)
- 「液晶パネルの色ずれを補正する（液晶アライメント）」 [p.94](#)

メモリーメニュー

〔メモリー〕メニューの〔画質メモリー〕では、プロジェクターの設定を保存できます。

設定	説明
メモリー保存	現在の映像設定を任意のメモリーに保存できます。
メモリー呼出	選択したメモリーに保存されている画像設定を呼び出します。
メモリー名称変更	保存されたメモリー名称を変更します。
メモリー削除	選択したメモリーに保存されている設定を削除します。
初期化	すべての画質メモリーを初期状態に戻します。

プライバシーメニュー

［プライバシー］メニューでは、プライバシーとセキュリティに関する設定ができます。

アプリメニュー

［アプリ］メニューには、最近使用したアプリや、プロジェクターにインストールされたすべてのアプリが表示されます。

システムメニュー

［システム］メニューでは、プロジェクターの各種設定ができます。

設定	説明
電源と節電設定	電源と省エネに関する設定をします。  [消費電力モード] を [高] に設定すると、待機時の消費電力が増加しますのでご注意ください。
デバイス情報	本機の設定や状態を表示します。 このメニューから、本機を初期化できます。
日付と時刻	本機の日付と時刻を設定します。
言語	メニュー、メッセージに表示する言語を選択します。
一括設定	本機の設定を一括でインポートしたり、エクスポートしたりします。
再起動	本機を再起動します。

Bluetoothメニュー

［Bluetooth］メニューでは、Bluetooth機器の接続設定ができます。

本機で設定したメニューの内容を、以下の方法で他の複数台のプロジェクターにコピーできます（一括設定機能）。一括設定機能は同じ型番のプロジェクター間でのみ使用できます。

- USBメモリーを使って設定する

USBメモリーを使用して、同じ型番のプロジェクターに以下のメニュー設定をインポートまたはエクスポートできます。

- [画質]
- [画質メモリー]

⚠ 注意

一括設定は、お客様の責任において行ってください。停電や通信異常などが原因で一括設定に失敗したときは、有償修理となることがあります。

▶ 関連項目

- 「USBメモリーを使って設定を書き出す」 [p.84](#)
- 「USBメモリーを使って設定を読み込む」 [p.84](#)

USBメモリーを使って設定を書き出す

USBフラッシュドライブを使って、同じモデルのプロジェクター間で[映像調整] および[画質メモリー] 設定を書き出すことができます。



FAT 16/32形式でフォーマットされ、セキュリティー機能のついていないUSBメモリーを使用してください。また、空のUSBメモリーを使用してください。一括設定ファイル以外のデータが入っていると、設定が正しく保存できないことがあります。

- 1 [システム] メニューの[一括設定] から、[書き出し] を選択します。

- 2 画面に指示メッセージが表示されたら、空のUSBメモリーを、コピー元のプロジェクターのUSB-A端子に直接接続します。

- 3 [はい] を選択して、メニュー設定の書き出しを開始します。

- 4 書き出しが完了すると、「書き出しが完了しました」というメッセージが表示されます。



一括設定ファイルのファイル名はbatchsetup.binです。ファイル名の"batchsetup"の部分を変更すると、ファイルが正しく認識されないことがあります。

- 5 USBメモリーを取り外します。

USBメモリーを使って設定を読み込む

USBフラッシュドライブを使って、同じモデルのプロジェクター間で[映像調整] および[画質メモリー] 設定を読み込むことができます。



FAT 16/32形式でフォーマットされ、セキュリティー機能のついていないUSBメモリーを使用してください。

- 1 [システム] メニューの[一括設定] から、[読み込み] を選択します。

- 2 指示が表示されたら、一括設定ファイルが保存されているUSBメモリーをコピー先のプロジェクターのUSB-A端子に接続します。

- 3** [はい] を選択して、メニュー設定の読み込みを開始します。

⚠ 注意

ファイルの読み込み中は、プロジェクターから電源コードやUSBメモリーを取り外さないでください。電源コードやUSBメモリーを取り外すと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

- 4** 読み込みが完了したら、USBメモリーを取り外します。

プロジェクターをメンテナンスする

プロジェクターのメンテナンス方法について説明します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターのメンテナンス」 [p.87](#)
- 「レンズを清掃する」 [p.88](#)
- 「本機を清掃する」 [p.89](#)
- 「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.90](#)
- 「液晶パネルの色ずれを補正する（液晶アライメント）」 [p.94](#)
- 「ファームウェアを更新する」 [p.96](#)

プロジェクターのレンズは定期的に掃除する必要があります。また、エアフィルターや吸排気口も掃除して、本機の内部温度が上昇しないようにしてください。

交換が必要な部品は、エアフィルターとリモコンの電池のみです。他の部品を交換する必要があるときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

警告

掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてから行ってください。また、取扱説明書で指示している場合を除き、本機のケースを開けないでください。内部には電圧の高い部分が数多くあり、火災・感電・事故の原因となります。

プロジェクターのレンズは定期的に掃除し、表面に付着したホコリや汚れに気付いたときにも掃除してください。

- レンズのホコリや汚れは、清潔で乾いた市販のメガネ拭きなどで軽く拭き取ってください。
- ホコリやゴミが多いときは、ブロアーで取り除いてからレンズを拭いてください。

警告

- レンズを掃除するときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてから行ってください。
- レンズに付着したゴミ・ホコリの除去にエアダスターなどの可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

- 光源消灯後すぐにレンズを拭かないでください。レンズが傷つく原因になります。
- レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

本機の掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてください。

- 本機のコリや汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。本機に液体を直接スプレーしないでください。

注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。本機のケースが変質、変色することがあります。また、エアダスターも使用しないでください。可燃性の物質が残留するおそれがあります。

エアフィルターは定期的にメンテナンスしてください。プロジェクターの内部温度が高くなっていることを示すメッセージが表示されたら、エアフィルターを掃除してください。エアフィルターの掃除は5,000時間を目安に行ってください。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除してください。（大気中に含まれる粒子物質が0.04～0.2mg/m3の環境下での使用を想定しています。）

注意

定期的にメンテナンスをしないと、プロジェクターの内部温度が高くなったときにメッセージが表示されます。内部の温度が上昇すると、故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。

▶ 関連項目

- 「エアフィルターと吸気口を清掃する」 [p.90](#)
- 「エアフィルターを交換する」 [p.92](#)

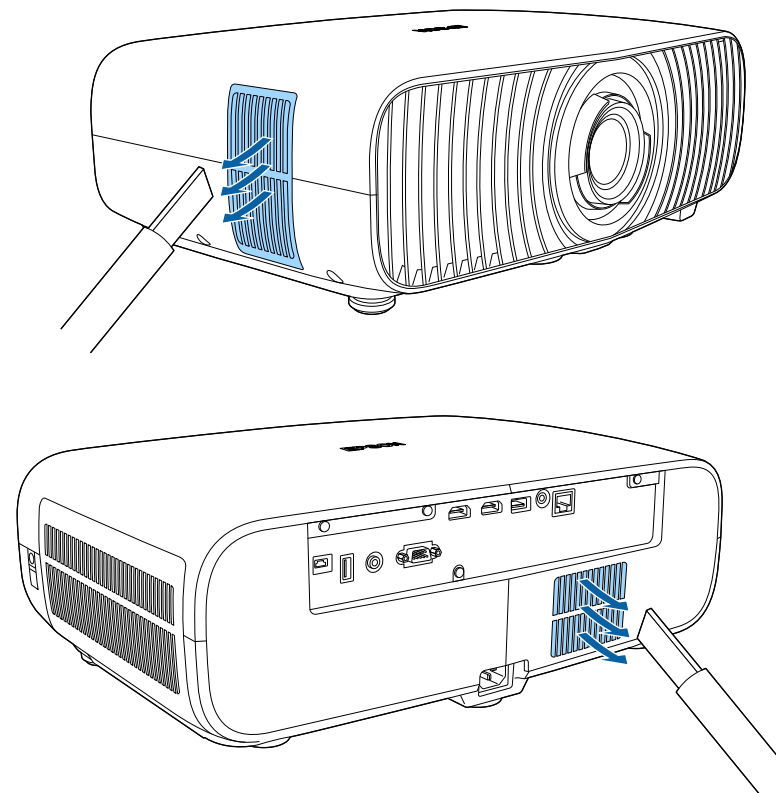
エアフィルターと吸気口を清掃する

以下の場合は、エアフィルターを清掃してください。

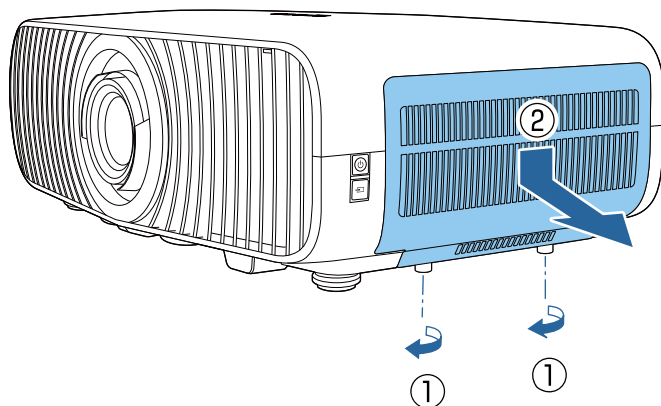
- エアフィルターや吸気口が汚れたとき
- 清掃を促すメッセージが表示されたとき

1 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

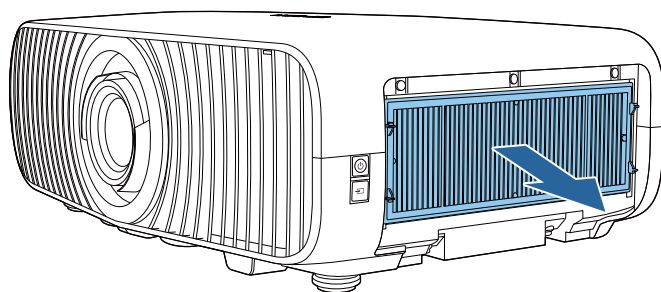
2 掃除機、またはブラシで丁寧にホコリを取ります。



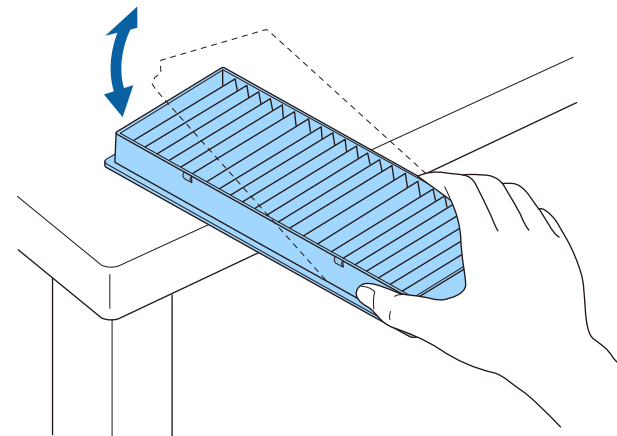
- 3** 固定ネジをゆるめて、エアフィルターカバーを外します。



- 4** エアフィルターを取り外します。



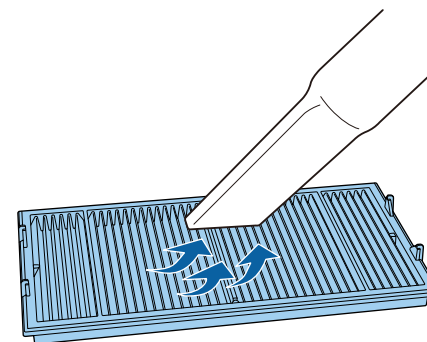
- 5** エアフィルターの両端を4〜5回軽く叩いて、ホコリを落とします。



注意

強く叩きすぎると、エアフィルターが割れて正しく装着できなくなることがあります。

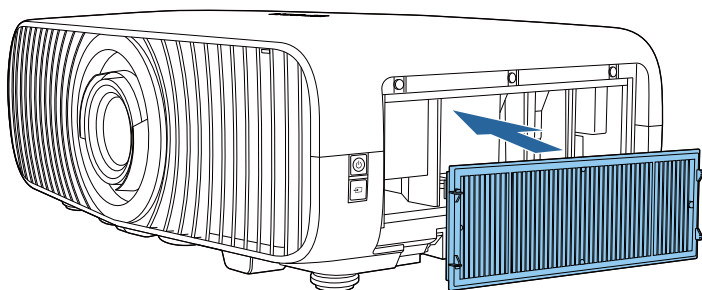
- 6** 掃除機でエアフィルターに残ったホコリを表側（ツメのある面）から吸い取ります。



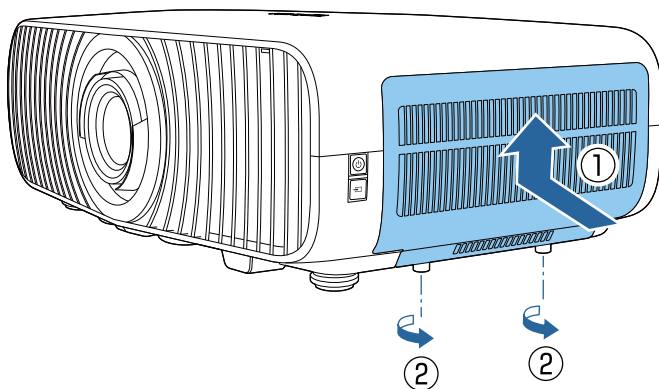
注意

- エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。
- エアダスターは使用しないでください。可燃性の物質が残留したり、精密部分にホコリが入り込むおそれがあります。

7 エアフィルターを取り付けます。



8 エアフィルターカバーを閉めて、固定ネジを締めます。



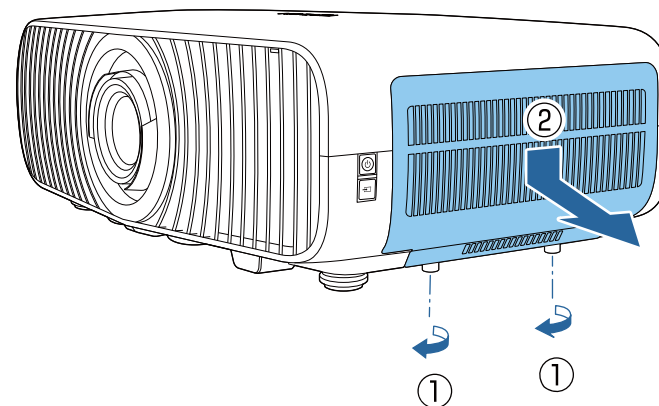
エアフィルターを交換する

以下の場合、エアフィルターを交換してください。

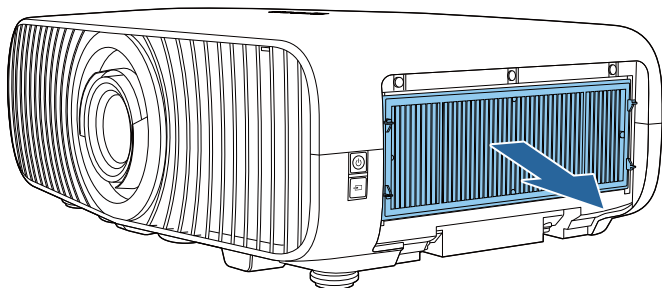
- エアフィルターの清掃後に、清掃または交換を促すメッセージが表示される
 - エアフィルターが破損している
- 本機は天吊り設置したままでもエアフィルターの交換ができます。

1 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

2 固定ネジをゆるめて、エアフィルターカバーを外します。



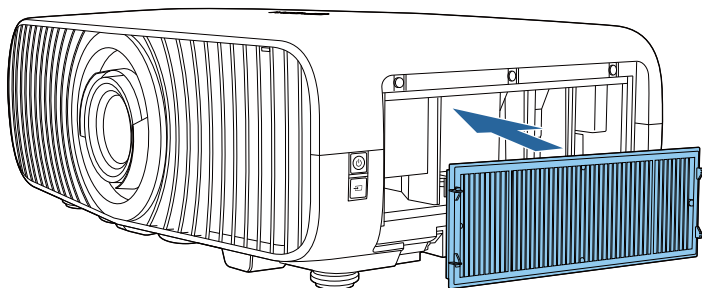
3 エアフィルターを取り外します。



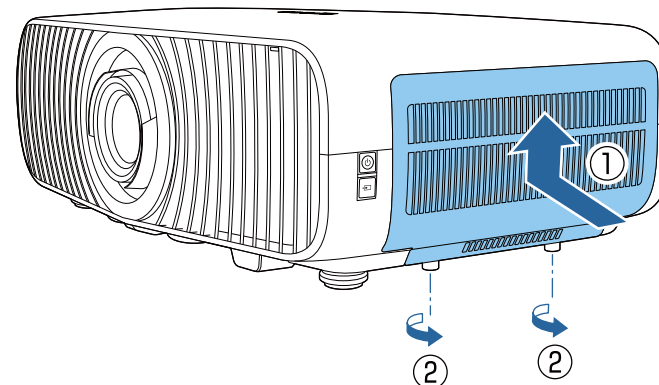
使用済みのエアフィルターは、国や地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

- フィルターの枠：ポリプロピレン
- フィルター：ポリプロピレン

4 新しいエアフィルターを取り付けます。



5 エアフィルターカバーを閉めて、固定ネジを締めます。



液晶アライメント機能を使って、液晶パネルの画素の色ずれ（赤・青）を補正します。水平・垂直方向に0.125画素ずつ、それぞれ±3画素の範囲内で調整できます。



- 調整できる色は赤と青です。緑は基準色パネルのため、調整できません。
- 液晶アライメントでの調整後は、映像が劣化することがあります。
- 画面からはみ出した画素分の映像は表示されません。

1 リモコンの【Menu】ボタンを押して、[動作]メニューを表示します。

2 液晶アライメントを選択します。



3 [液晶アライメント] を選択して、[オン] に設定します。

4 [調整色] を選択して、以下のいずれかを選択します。

- [R]：赤を調整します。
- [B]：青を調整します。

5 [パターン色] を選択して、調整時に表示するグリッドの色を選択します。[調整色] の設定によって選択できる色は異なります。

- [R/G/B]：グリッドは白で表示されます。
- [R/G]：グリッドは黄色で表示されます。[R/G] は [調整色] が [R] のときのみ表示されます。
- [G/B]：グリッドはシアンで表示されます。[G/B] は [調整色] が [B] のときのみ表示されます。

6 [次へ] を選択します。

7 [補正方式選択] 画面で、以下のいずれかを選択します。

- 液晶パネル全体の調整をするときは [全体調整] を選択して、手順8に進みます。
- より詳細な調整をするときは [4隅調整] を選択して、手順10に進みます。

8 上下左右ボタンを使って [調整色] で選択した色を調整し、【Enter】ボタンを押します。



調整結果が画面全体のグリッドに反映されます。

9 次のいずれかを選択します。

- より詳細な調整をするときは [4隅を調整する] を選択します。
- 終了するときは [終了] を選択します。

10 上下左右ボタンを使って、四角で表示されたコーナーの色を調整し、【Enter】ボタンを押します。

11 4隅の調整が終わったら【Enter】ボタンを押します。

12 次のいずれかを選択します。

- さらに調整が必要なときは「詳細調整」を選択します。上下左右ボタンを使って、調整が必要な交点を選択し、【Enter】ボタンを押します。調整を行い、もう一度【Enter】ボタンを押します。同様の手順で他の交点を調整します。
- 終了するときは「終了」を選択します。



ソフトウェアやファームウェアを更新すると、今まで起こっていたトラブルの解消、機能の改善や追加などができます。最新版のソフトウェアやファームウェアをお使いください。

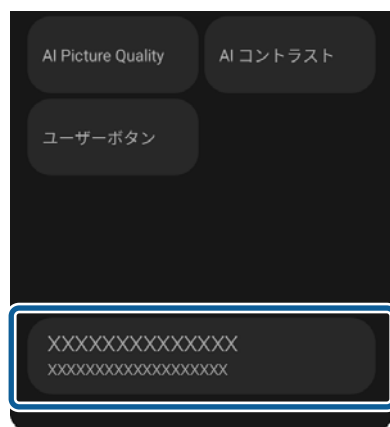
プロジェクターが常にネットワークに接続されている場合、最新のプロジェクターファームウェアが利用可能になると、ダッシュボードに自動的に通知が表示されます。

画面の指示に従ってファームウェアを更新してください。プロジェクターを常にネットワークに接続した状態にするには、[省電力モード] を [高] に設定してください。

☞ [システム] > [電源と節電設定] > [消費電力モード]

1 リモコンの【Dashboard】ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。

2 通知エリアを選択して、【Enter】ボタンを押します。
更新ウィザードが始まります。



3 画面の指示に従って、ファームウェアを更新します。

注意

ファームウェアの更新中は、本機を操作したり、本機の電源を切ったりしないでください。



[システム] メニューからもファームウェアの更新ができます。

[システム] メニューの [ネットワーク経由で実行] を選択すると、プロジェクターがファームウェア更新モードになります。

☞ [システム] > [デバイス情報] > [システムアップデート]

困ったときに

想定されるトラブルと、その対処方法について説明します。

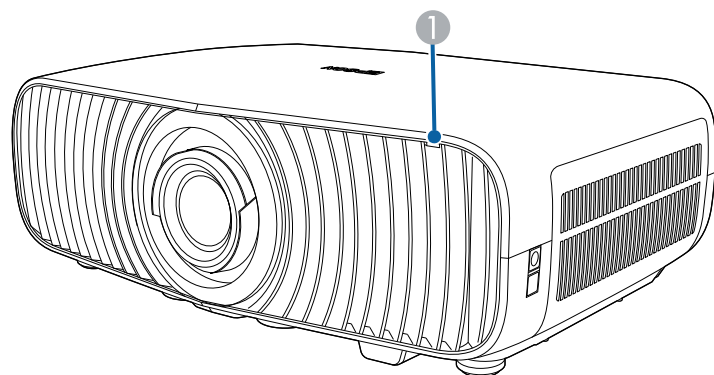
▶ 関連項目

- 「インジケータの見方」 [p.98](#)
- 「電源に関するトラブル」 [p.100](#)
- 「映像に関するトラブル」 [p.101](#)
- 「音声に関するトラブル」 [p.104](#)
- 「Bluetoothに関するトラブル」 [p.105](#)
- 「HDMI CECに関するトラブル」 [p.106](#)
- 「リモコン操作に関するトラブル」 [p.107](#)
- 「ネットワークに関するトラブル」 [p.108](#)

インジケータは、本機の状態をお知らせします。インジケータの色と状態を確認し、以下の表から対処方法を確認してください。



- インジケータがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
- 〔動作〕メニューの〔インジケータ表示〕が〔オフ〕に設定されている場合は、正常な投写中にインジケータが消灯しています。
- 異常発生時はネットワーク通信ができません。



① インジケータ

プロジェクターの状態

インジケータの色	インジケータの状態	プロジェクターの状態と対処方法
—	消灯	<ul style="list-style-type: none"> スリープ状態 シャットダウン状態

インジケータの色	インジケータの状態	プロジェクターの状態と対処方法
白	点灯	<ul style="list-style-type: none"> 投写中 システムを更新中 更新用のファームウェアデータをダウンロード中
	点滅	<ul style="list-style-type: none"> スタンバイモードに移行中 【Blank】ボタンで映像を遮断中
	速点滅	プロジェクター内部の制御プロセッサ（MCU）更新データをダウンロード中
オレンジ	点灯	<ul style="list-style-type: none"> 内部温度が高くなっています。 <ul style="list-style-type: none"> 高温にならない環境で使用してください。 内部高温異常（オーバーヒート）状態です。 <ul style="list-style-type: none"> 自動的に消灯し、投写できなくなります。 電源を切った状態で5分間待ち、温度を下げます。 問題が解決しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。 ファン異常またはセンサー異常状態です。 <ul style="list-style-type: none"> 自動的に消灯し、投写できなくなります。 電源を切った状態で5分間待ち、温度を下げます。 問題が解決しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
	速点滅	詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

▶▶ 関連項目

- 「動作メニュー」 [p.82](#)
- 「設置メニュー」 [p.79](#)
- 「エアフィルターと吸気口を清掃する」 [p.90](#)
- 「エアフィルターを交換する」 [p.92](#)

電源に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- 「電源が入らない」 [p.100](#)
- 「予期せず電源が切れる」 [p.100](#)

電源が入らない

電源ボタンを押しても本機の電源が入らないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 電源コードが本機とコンセントに確実に接続されていることを確認します。
- 2** リモコンの電池を確認します。
- 3** 電源コードが故障している可能性があります。電源コードを抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

予期せず電源が切れる

本機の光源が予期せず消えるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [電源と節電設定] メニューの [シャットダウンタイマー] で設定した時間が経過したため、本機の電源がオフになっている可能性があります。プロジェクターまたはリモコンの電源ボタンを押して、電源を入れます。
☛ [システム] > [電源と節電設定] > [シャットダウンタイマー]

- 2** 本機的光源が消え、インジケーターがオレンジ色に点灯しているときは、本機の内部高温異常（オーバーヒート）で電源がオフになっています。
- 3** プロジェクターの設定によって、スタンバイ状態でもファンが回転することがあります。また、スタンバイ状態から電源をオンにしたときに、ファンが大きな音を立てて回転することがありますが、故障ではありません。
- 4** 電源を完全に切り、プロジェクターの電源プラグを抜きます。
- 5** 通気状態を確認し、10～20分程度待ちます。
- 6** プロジェクターの周囲に十分なスペースがあることを確認し、必要に応じてエアフィルターを清掃します。
- 7** プロジェクターが完全に冷えたことを確認してから、電源プラグを差し込み、電源を入れます。

▶ 関連項目

- 「動作メニュー」 [p.82](#)

投写映像に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- ・「映像がゆがむ」 [p.101](#)
- ・「映像がぼやける」 [p.101](#)
- ・「映像の一部が表示されない」 [p.101](#)
- ・「映像にノイズが入る、乱れる」 [p.102](#)
- ・「映像の明るさや色合いが違う」 [p.102](#)
- ・「映像と音声がずれる」 [p.103](#)
- ・「映像が上下反転して表示される」 [p.103](#)

映像がゆがむ

投写画面がゆがむときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。
- 2 [Quick Corner] または [ポイント補正] メニューで映像のゆがみを補正します。
 - ☛ [設置] > [幾何学歪み補正] > [Quick Corner]
 - ☛ [設置] > [幾何学歪み補正] > [ポイント補正]

▶ 関連項目

- ・「設置メニュー」 [p.79](#)

映像がぼやける

投写映像がぼやけるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 映像のピントを手動で調整します。

- 2 投写距離の推奨範囲内に設置します。

- 3 本機のレンズを掃除します。



寒い場所から暖かい場所に持ち込んだときは、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に本機を設置するようにします。

- 4 [映像調整と音] メニューで [シャープネス] を調整して、投写映像の画質を上げます。

☛ [映像調整と音] > [映像調整] > [シャープネス]

- 5 コンピューターから映像を投写しているときは、解像度を下げるか、本機の解像度に合わせて解像度を変更します。

▶ 関連項目

- ・「ピントを調整する」 [p.40](#)
- ・「映像調整メニュー」 [p.76](#)

映像の一部が表示されない

映像が部分的にしか表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 投写映像の位置を手動で調整します。

- 2 [画面] メニューで、入力ソースに合わせて適切なアスペクト比を選択します。(入力ソースがHDMIのときのみ)

☛ [映像調整と音] > [画面] > [アスペクト]

3 [設置] メニューの [ブランキング] 設定を確認します。[上]、[下]、[左] および [右] の全ての値が0に設定されていることを確認します。

4 コンピューターのディスプレイ設定でデュアルディスプレイが無効になっているか、本機の対応解像度に合った設定がされているか確認します。(詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。)

▶ 関連項目

- ・ 「設置メニュー」 [p.79](#)
- ・ 「映像のアスペクト比を切り替える」 [p.45](#)

映像にノイズが入る、乱れる

投写映像に電子的な干渉（ノイズ）や妨害が入るときは、次の対処方法を確認してください。

1 本機とビデオ機器を接続しているケーブルの状態を確認します。ケーブルが以下の状態であることを確認してください。

- ・ 干渉を受けないように、電源コードから離れている
- ・ ケーブルの両端が確実に接続されている
- ・ 延長ケーブルを使用していない

2 接続したA/VシステムがHDMI端子のeARC/ARCに対応していることを確認してください。対応していない場合、映像が乱れることがあります。

3 メニューの [DNR] を調整します。

☞ [映像調整と音] > [映像調整] > [詳細設定] > [DNR]

4 映像のゆがみを補正したときは、[映像調整と音] メニューで [シャープネス] を低い値に設定して、投写映像の画質を向上させます。

☞ [映像調整と音] > [映像調整] > [シャープネス]

5 延長ケーブルを使用して電源に接続しているときは、延長ケーブルを使わずに投写して、映像にノイズが入らないか確認します。

6 コンピューターのディスプレイ解像度やリフレッシュレートが本機の対応解像度、リフレッシュレートと合っているか確認します。

▶ 関連項目

- ・ 「映像調整メニュー」 [p.76](#)
- ・ 「入力メニュー」 [p.75](#)

映像の明るさや色合いが違う

投写映像が暗すぎるとき、明るすぎるとき、また色合いが正しく表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

1 [画像モード] メニューのカラーモードで、映像と投写環境に合うカラーモードを選択します。

☞ [映像調整と音] > [映像調整] > [画像モード]

2 [映像調整と音] メニューの [シーン適応ガンマ補正] を別の設定に変えてみます。

☞ [映像調整と音] > [映像調整] > [詳細設定] > [シーン適応ガンマ補正]

3 お使いのビデオ機器の設定を確認します。

4 「映像調整」メニューで色に関する設定を調整します。

☛ 「映像調整と音」 > 「映像調整」

5 「映像調整と音」メニューで「HDMI RGBレンジ」を設定します。 (HDMIソースのみ)

☛ 「映像調整と音」 > 「映像調整」 > 「詳細設定」 > 「HDMI RGBレンジ」

6 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。ケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。

7 投写距離の推奨範囲内に設置します。

▶▶ 関連項目

- 「映像調整メニュー」 [p.76](#)
- 「入力メニュー」 [p.75](#)

映像と音声はずれる

投写映像と音声はずれるときは、次の対処方法を確認してください。

1 「映像調整と音」メニューの「ALLM」を「オン」に設定します。 投写コンテンツに応じて応答速度を自動で調整し、投写映像と音声のずれを補正します。

☛ 「映像調整と音」 > 「映像調整」 > 「詳細設定」 > 「ALLM」



- 「映像調整と音」メニューの「ゲームモード」を「オン」に設定しても、投写映像と音声のずれを補正できません。ただし、「ALLM」のように投写コンテンツに応じて自動的に調整はできません。

☛ 「映像調整と音」 > 「映像調整」 > 「詳細設定」 > 「ゲームモード」

- 「ゲームモード」を設定するには、事前に以下の設定が必要になります。
 - 入力ソースをHDMIにする
 - 「ALLM」を「オフ」にする
 - 「フレーム補間」を「オフ」にする

2 接続機器の音声出力の設定を変更します。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

映像が上下反転して表示される

正しい設置モードを選択します。

☛ 「設置」 > 「設置モード」

▶▶ 関連項目

- 「設置メニュー」 [p.79](#)

音声に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- 「音が出ない、小さすぎるなどのトラブル」 [p.104](#)

音が出ない、小さすぎるなどのトラブル

本機にはスピーカーが内蔵されていないため、音声は外部機器から出力されます。

外部機器から音が出ない、または音量が小さすぎる場合は、次の対処方法を確認してください。

- 1** リモコンの音量 **[+]** / **[-]** ボタンを押して、HDMIケーブルで接続されているスピーカーなどの音量を調整します。
- 2** 本機と外部機器のケーブルが正しく接続されているか確認します。
- 3** 接続しているテレビやオーディオ機器の音量が適切に設定されているかや、音声出力先が正しく設定されているかを確認します。
- 4** HDMIケーブルで、HDMI eARC/ARC対応のオーディオ機器に接続して音声を出力するときは、以下の設定を確認します。
 - ARC接続しているときは、メニューで **[HDMI制御]** を **[オン]** に設定します。
 **[入力] > [入力] > [HDMI制御]**
 - お使いのHDMIケーブルが、HDMI eARC/ARCに対応しているか確認します。



- HDMIケーブルで、HDMI eARC/ARCに対応していない外部オーディオ機器に音声を出力する場合は、プロジェクターのメニューで **[HDMI制御]** を **[オフ]** に設定してください。

 **[入力] > [入力] > [HDMI制御]**

- eARC/ARCの対応音声形式について詳しくは、『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。

- 5** HDMI eARC/ARC対応のオーディオ機器に正しく音声が出力されないときは、**[デジタル出力]** の設定を **[オート]** から **[PCM]** に変更してみてください。

 **[映像調整と音] > [オーディオ出力] > [デジタル出力]**

▶ 関連項目

- 「Bluetooth仕様」 [p.116](#)

Bluetooth接続ができない、または正常に動作しないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** Bluetooth機能が本機で [オン] になっているか確認します。オフになっている場合、接続機器から検出されません。
- 2** Bluetooth機器の音量が大きくなっているか、音声出力が正しく設定されているか確認します。
- 3** 他のBluetooth機器が接続されていないことを確認します。
複数のBluetooth機器を同時に接続することはできません。
- 4** Bluetooth機器が本機のBluetooth仕様に適合しているか確認します。
- 5** 次の点を確認します。
 - Bluetoothオーディオ機器と本機の間には障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
 - Bluetoothオーディオ機器が離れすぎているか確認します。
 - 電子レンジ、2.4GHz帯の周波数を使用するコードレス電話や無線機器などの近くで本機を使用しないでください。電波干渉が発生することがあります。

▶ 関連項目

- 「Bluetooth仕様」 [p.116](#)

プロジェクターから接続機器を操作できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** お使いのケーブルがHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。
- 2** 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 3** 接続機器がCECデバイスリストに表示されているか確認します。
HDMI CEC規格に準拠していない機器はCECデバイスリストに表示されません。HDMI CEC規格に準拠した機器をお使いください。
☛ [入力] > [入力] > [CECデバイスリスト]
- 4** [入力] メニューで、[HDMI制御] を [オン] にします。
☛ [入力] > [入力] > [HDMI制御]
- 5** 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。
- 6** 接続機器の電源がスタンバイ状態になっているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 7** 新しく機器を接続したり、接続を変更した後に操作できないときは、接続機器のCEC機能を設定し直して、再起動します。

▶ 関連項目

- ・ 「HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する」 [p.54](#)
- ・ 「入力メニュー」 [p.75](#)

本機がリモコン操作に反応しないときは、次の対処方法を確認してください。



リモコンを紛失した場合は、新たにリモコンをお買い求めいただけます。

- 1** リモコンの電池が正しくセットされていること、電池が切れていないことを確認します。必要に応じて、電池を交換します。
- 2** リモコンのボタンが押し込まれた状態になっていないか確認します。その状態ではリモコンが操作できないことがあります。ボタンを元の状態に戻してください。
- 3** リモコン信号が届く距離、角度からリモコンを操作します。
- 4** 本機がウォームアップ中またはシャットダウン中でないか確認します。
- 5** 蛍光灯の強い光、直射日光、赤外線機器の信号が、本機のリモコン受光部に干渉することがあります。照明の明るさを落とす、または直射日光や赤外線干渉を避けられる場所に本機を移動してください。

▶ 関連項目

- ・「リモコンを操作する」 [p.29](#)
- ・「リモコンに電池を取り付ける」 [p.28](#)
- ・「インジケータの見方」 [p.98](#)

ネットワーク経由でプロジェクターを使用するときに想定されるトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- ・「Wi-Fiネットワークに関するトラブル」 [p.108](#)
- ・「無線LAN認証できない」 [p.108](#)
- ・「アクセスポイントを検索できない」 [p.108](#)
- ・「Webブラウザを使って設定を変更できない」 [p.109](#)

Wi-Fiネットワークに関するトラブル

Wi-Fiネットワークに接続できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** お使いのWi-Fiルーターやモデムが正しく動作していることを確認します。再起動すると問題が解決することがあります。
- 2** Wi-Fiルーターと本機の間には障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
- 3** [ネットワーク] メニューの [Wi-Fi] で、ネットワークの設定を確認できます。
- 4** 本機を初期化したときは、初期設定でネットワークを設定しなおす必要があります。

無線LAN認証できない

無線LANの認証に失敗するときは、次の対処方法を確認してください。

- ・無線LANが正しく設定されていても認証できないときは、[システム] メニューの [日付と時刻] を設定し直してください。

- ・アクセスポイントのセキュリティがWPA3-EAPに設定されているときは、WPA2/WPA3-EAPに設定します。

アクセスポイントを検索できない

無線LANのアクセスポイントが検索できないときは、次の対処方法を確認してください。

- ・接続したい市販のアクセスポイントの5 GHzのチャンネル設定を、W52チャンネル帯（36ch、40ch、44ch、48ch）にしてください。本機から5 GHzのアクセスポイントが検索できるようになります。

Wi-Fi対応チャンネルおよび周波数

出力先設定	対応
2.4GHz Ch1 - Ch11 (2.400 - 2.473GHz)	✓
2.4GHz Ch12,13 (2.473 - 2.4835GHz)	✓
5GHz Ch36,40,44,48 (5.15 - 5.25GHz)	✓
5GHz Ch52,56,60,64 (5.25 - 5.35GHz)	*1)
5GHz Ch100 - Ch144 (5.47 - 5.725GHz)	✓ *1) (Ch100-140)
5GHz Ch149 - Ch165 (5.725 - 5.85GHz)	—
6GHz Ch1 - Ch93 (5.945 - 6.425GHz)	*1)
6GHz Ch97 - Ch113 (6.425 - 6.525GHz)	—

6GHz Ch117 - Ch185 (6.525 - 6.875GHz)	—
6GHz Ch189 - Ch233 (6.875 - 7.125GHz)	—

*1) シンプルAPモード以外のモードで動作する

Webブラウザーを使って設定を変更できない

Webブラウザーを使って本機の設定を変更できないときは、正しいユーザー名とパスワードを確認します。

- ユーザー名を確認してください。(ユーザー名は変更できません。)
 - [ベーシックコントロール] にアクセスするときのユーザー名：
EPSONREMOTE
 - その他の設定にアクセスするときのユーザー名：**EPSONWEB**
- パスワードには、[ネットワーク] メニューの[IP制御] で設定している[Web制御パスワード] を入力します。デフォルトのパスワードは設定されていません。
- お使いのWebブラウザーで、プロキシサーバーを使用して接続するように設定されていると、[Epson Web Control] 画面を表示できません。プロキシサーバーを使用しないで接続するように設定してください。



ユーザー名、パスワードの大文字小文字は区別されます。

付録

お使いの製品の仕様や使用上の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

▶ 関連項目

- 「オプション・消耗品一覧」 [p.111](#)
- 「スクリーンサイズと投写距離」 [p.112](#)
- 「対応解像度」 [p.114](#)
- 「本機仕様」 [p.115](#)
- 「安全規格対応シンボルマークと説明」 [p.117](#)
- 「レーザー製品を安全にお使いいただくために」 [p.119](#)
- 「用語解説」 [p.121](#)
- 「一般のご注意」 [p.122](#)

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。

予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

▶ 関連項目

- 「設置用金具」 [p.111](#)
- 「外付けオプション」 [p.111](#)
- 「消耗品」 [p.111](#)

設置用金具

天吊金具 **ELPMB22**

薄型天吊金具 **ELPMB30**

天井に取り付けるときに使います。

セーフティーワイヤーセット **ELPWR01**

落下防止のため、本機と天吊り金具をつなぐときに使います。

パイプ450 (450mm) **ELPFP13**

パイプ700 (700mm) **ELPFP14**

高天井および化粧天井に取り付けるときに使います。



天吊り設置には特別な技術が必要です。詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

消耗品

エアフィルター **ELPAF60**

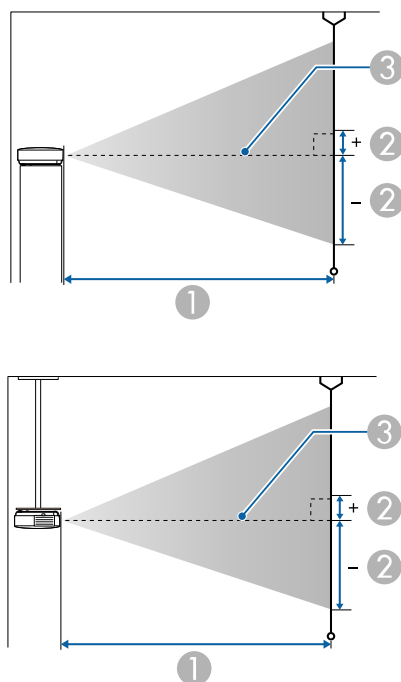
使用済みエアフィルターと交換します。

外付けオプション

Android TV™ 端末 **ELPAP12**

メディアストリーミング端末です。オンラインコンテンツを視聴するときに使います。

この表に従って、スクリーンからプロジェクターまでの距離を、投写映像の大きさに応じて決めます。



- ① 投写距離
- ② レンズ中心からスクリーン下端までの高さ（上下レンズシフトの設定により変わります）
- ③ レンズの中心

EH-LS7000

16:9スクリーンサイズ		①	②
		最短（ワイド）～最長（テレ）	上下レンズシフト 最下～最上
インチ	cm	cm（インチ）	cm（インチ）
40型	89 × 50	114 - 186 (44.9" - 73.2")	-54 - 4 (-21.3" - 1.6")
60型	133 × 75	173 - 281 (68.1" - 110.6")	-81 - 6 (-31.9" - 2.4")
80型	177 × 100	232 - 376 (91.3" - 148.0")	-108 - 9 (-42.5" - 3.5")
100型	221 × 125	290 - 471 (114.2" - 185.4")	-135 - 11 (-53.1" - 4.3")
120型	226 × 149	349 - 566 (137.4" - 222.8")	-162 - 13 (-63.8" - 5.1")
150型	332 × 187	437 - 708 (172.0" - 278.7")	-203 - 16 (-79.9" - 6.3")
200型	443 × 249	584 - 945 (230.3" - 372.0")	-271 - 22 (-106.7" - 8.7")
300型	664 × 374	878 - 1419 (345.7" - 558.7")	-406 - 32 (-159.8" - 12.6")
400型	886 × 498	1172 - 1893 (461.4" - 745.3")	-541 - 43 (-213.0" - 16.9")
500型	1107 × 623	1466 - 2367 (577.2" - 931.9")	-677 - 54 (-266.5" - 21.3")

4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短（ワイド）～最長（テレ）	上下レンズシフト 最下～最上
インチ	cm	cm（インチ）	cm（インチ）
33型	67 × 50	114 - 186 (44.9" - 73.2")	-54 - 4 (-21.3" - 1.6")
40型	81 × 61	140 - 229 (55.1" - 90.2")	-66 - 5 (-26.0" - 2.0")

4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短（ワイド）～最長（テレ）	上下レンズシフト 最下～最上
インチ	cm	cm（インチ）	cm（インチ）
60型	122 × 91	212 - 345 (83.5" - 135.8")	-99 - 8 (-39.0" - 3.1")
80型	163 × 122	284 - 461 (111.8" - 181.5")	-133 - 11 (-52.4" - 4.3")
100型	203 × 152	356 - 577 (140.2" - 227.2")	-166 - 13 (-65.4" - 5.1")
120型	244 × 183	428 - 693 (168.5" - 272.8")	-199 - 16 (-78.3" - 6.3")
150型	305 × 229	536 - 867 (211.0" - 341.3")	-248 - 20 (-97.6" - 7.9")
200型	406 × 305	716 - 1157 (281.9" - 455.5")	-331 - 26 (-130.3" - 10.2")
300型	610 × 457	1076 - 1737 (423.6" - 683.9")	-497 - 40 (-195.7" - 15.7")
400型	813 × 610	1435 - 2318 (565.0" - 912.6")	-663 - 53 (-261.0" - 20.9")
408型	829 × 622	1465 - 2366 (576.8" - 931.5")	-676 - 54 (-266.1" - 21.3")

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短（ワイド）～最長（テレ）	上下レンズシフト 最下～最上
インチ	cm	cm（インチ）	cm（インチ）
37型	80 × 50	114 - 186 (44.9" - 73.2")	-54 - 4 (-21.3" - 1.6")
40型	86 × 54	124 - 202 (48.8" - 79.5")	-59 - 5 (-23.2" - 2.0")

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短（ワイド）～最長（テレ）	上下レンズシフト 最下～最上
インチ	cm	cm（インチ）	cm（インチ）
60型	129 × 81	187 - 304 (73.6" - 119.7")	-88 - 7 (-34.6" - 2.8")
80型	172 × 108	251 - 407 (98.8" - 160.2")	-117 - 9 (-46.1" - 3.5")
100型	215 × 135	314 - 509 (123.6" - 200.4")	-146 - 12 (-57.5" - 4.7")
120型	258 × 162	378 - 612 (148.8" - 240.9")	-176 - 14 (-69.3" - 5.5")
150型	323 × 202	473 - 766 (186.2" - 301.6")	-219 - 18 (-86.2" - 7.1")
200型	431 × 269	632 - 1022 (248.8" - 402.4")	-293 - 23 (-115.4" - 9.1")
300型	646 × 404	950 - 1534 (374.0" - 603.9")	-439 - 35 (-172.8" - 13.8")
400型	862 × 538	1267 - 2047 (498.8" - 805.9")	-585 - 47 (-230.3" - 18.5")
462型	995 × 622	1466 - 2367 (577.2" - 931.9")	-677 - 54 (-266.5" - 21.3")

映像信号ごとのリフレッシュレートと解像度についての詳細は『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。

▶▶ 関連項目

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 [p.8](#)

商品名	EH-LS7000
外形サイズ	EH-LS7000: 幅440×高さ147×奥行311 mm（突起部を含まず）
液晶パネルサイズ	0.62型
表示方式	3LCD
有効画素数	Full HD（横1,920×縦1,080ドット）×3
スクリーン解像度	8,294,400ピクセル*
フォーカス調整	手動
光源	レーザーダイオード
光源出力	最大86.4 W
レーザークラス（内部のレーザー光源）	クラス4
波長	449～461 nm
光源寿命**	最大約20,000時間
コントラスト比	5,000,000：1を超える（ダイナミックコントラスト標準/高速）
電源	100-240V AC±10% 50/60Hz 2.8 - 1.3 A
消費電力（100-120 Vエリア）	動作時（明るさが100%のとき）：269 W 動作時（明るさが50%のとき）：172 W
消費電力（220-240 Vエリア）	動作時（明るさが100%のとき）：260 W 動作時（明るさが50%のとき）：168 W
待機時消費電力	通信オン：2.0 W 通信オフ：0.5 W
動作高度	標高 0～3,048 m

動作温度範囲	標高0～2,286 m：+5～+35℃（湿度20～80%、結露しないこと） 標高2,287～3,048 m：+5～+30℃（湿度20～80%、結露しないこと） 使用する環境の温度が高くなったときは、光源の明るさを自動的に落とします。 （標高0～2,286mでは約35℃、標高2,287～3,048mでは約30℃を目安としますが、使用環境等によって異なります。）
保存温度範囲	-10～60℃（湿度10～90%、結露しないこと）
質量	約8.0 kg

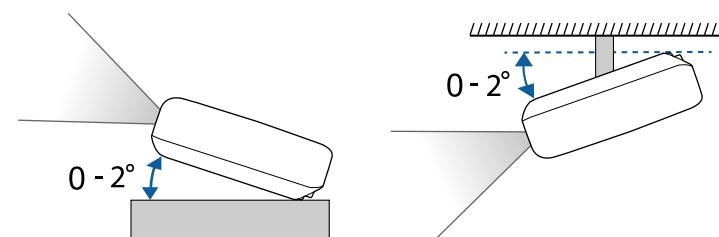
* ピクセルシフト技術により、4K相当の解像度を実現しています。

** 光源の明るさが半減するまでの目安時間です。（大気中に含まれる粒子物質が0.04～0.2mg/m³の環境下での使用を想定しています。使用条件や使用環境によって目安時間は変動します。）

定格ラベルは本機の底面に貼り付けられています。

傾斜角度

下図で示す角度以上に傾けてお使いになると、故障や事故の原因となることがあります。



▶ 関連項目

- 「接続端子」 [p.116](#)
- 「Bluetooth仕様」 [p.116](#)

接続端子

Service端子	1系統	USBコネクタ (Mini-B)
Trigger Out端子	1系統	ステレオミニピンジャック
RS-232C端子	1系統	ミニD-Sub 9pin (オス)
HDMI1端子	1系統	HDMI (タイプA)
HDMI2 (eARC/ARC)端子	1系統	HDMI (タイプA)
USB-A端子	2系統	USBコネクタ (タイプA)
Audio Out端子	1系統	ステレオミニピンジャック (3極) 出力レベル: 25 mW 出力抵抗: 32 ohm
LAN端子	1系統	RJ-45



USB-A端子はUSB2.0に対応しています。ただし、USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。

警告

医療機器、自動ドアや火災報知機などの自動制御機器の近くで使用しないでください。電磁妨害による誤動作や事故の原因となります。



- 機器の規格や種類によっては接続できないことがあります。
- 通信可能距離内で接続しているときでも、電波状況によっては接続が切れることがあります。
- Bluetoothの通信方式は、無線LAN (IEEE802.11b/g) や電子レンジと同一の周波数帯 (2.4GHz) を使用しています。そのため、同時に使用すると電波干渉が発生し、映像や音声が途切れたり接続できないことがあります。同時に使用したいときは、Bluetooth機器をこれらの機器の近くで使用しないでください。
- Bluetooth機能は本機の電源を初めて入れたときに有効になります。

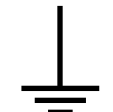
Bluetooth仕様

バージョン	Bluetooth Ver. 6.0
出力	Class 2
通信可能距離	約10m
対応プロファイル	A2DP、AVRCP、HID
使用周波数	2.4 GHz帯 (2.402 - 2.480 GHz)
対応コーデック	SBC、AAC、aptX *

* aptXコーデックは、スピーカーやヘッドフォンなどのBluetoothオーディオデバイスに出力する場合にのみ利用できます。

製品上にシンボルマークが表示されている場合は、それぞれ以下の意味を持っています。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
①		IEC60417 No. 5007	電源ON 電源への接続を示す。
②		IEC60417 No. 5008	電源OFF 電源からの切り離しを示す。
③		IEC60417 No. 5009	スタンバイ 機器・装置の一部だけを通電状態にし、機器・装置を待機状態にするためのスイッチまたはその位置を示す。
④		ISO7000 No. 0434B, IEC3864-B3.1	注意 製品取扱時の全般的な注意を示す。
⑤		IEC60417 No. 5041	注意（高温） 高温の可能性があり、不注意に触れない方がよい箇所であることを示す。
⑥		IEC60417 No. 6042 ISO3864-B3.6	注意（感電危険） 感電（電撃）の危険性がある機器・装置であることを示す。
⑦		IEC60417 No. 5957	屋内専用 屋内使用専用を目的とする電気機器・装置であることを表す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
⑧		IEC60417 No. 5926	直流電源コネクタ極性 直流電源を接続してもよい機器のプラスおよびマイナス電極の接続を示す。
⑨		—	No. 8と同じ
⑩		IEC60417 No. 5001B	電池（一般） 電池を電源とする機器・装置に使用する。電池装着部分のカバーまたは接続端子を示す。
⑪		IEC60417 No. 5002	電池の向き 電池ケース本体および電池ケース内での向きを示す。
⑫		—	No. 11と同じ
⑬		IEC60417 No. 5019	保護接地 障害発生時の電撃（感電）保護用外部導体への接続端子または保護接地極の端子であることを示す。
⑭		IEC60417 No. 5017	アース No. 13の使用が明示的に要請されない場合の接地（アース）端子であることを示す。
⑮		IEC60417 No. 5032	交流 交流専用の機器・装置であり、交流に対応する端子であることを示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
16		IEC60417 No. 5031	直流 直流専用の機器・装置であり、直流に対応する端子であることを示す。
17		IEC60417 No. 5172	クラスⅡ機器 JIS C 9335-1/JIS C 8105-1でクラスⅡ機器と規定した安全性要求事項に適合する機器・装置であることを示す。
18		ISO 3864	一般的な禁止 特定しない一般的な禁止通告を示す。
19		ISO 3864	接触禁止 機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
20		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止を示す。
21		—	プロジェクターの上に物を置いたはならないことを示す。
22		ISO3864 IEC60825-1	注意（レーザー放射） 製品上に注意が必要なレベルのレーザー放射部があることを示す。
23		ISO 3864	分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
24		IEC60417 No. 5266	待機、一部待機 機器・装置の一部が準備状態であることを示す。
25		ISO3864 IEC60417 No. 5057	注意（可動部品） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
26		IEC60417 No. 6056	注意（可動ファンのブレード） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
27		IEC60417 No. 6043	注意（鋭利な角） 保護規定上、鋭利な角には触れてはいけないことを指示する。
28		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗き込み禁止。
29		ISO7010 No. W027 ISO 3864	警告、光放射（UV、可視光、IRなど） 光放射の近くにいるときは、目や肌に負傷を与えないように注意してください。
30		IEC60417 No. 5109	居住区域使用禁止 居住区域での使用に適さない電気機器・装置であることを示す。

本機はJIS C 6802:2014、およびIEC60825-1に適合したクラス1レーザー製品です。

以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

⚠ 警告

- 本機のケースを開けないでください。内部に高出力レーザー製品が組み込まれています。
- 本機の光源を直接見ないでください。強い光が視力障害などの原因となります。

⚠ 注意

本機を廃棄する場合は分解しないでください。国や地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。



本機的光源はレーザーを使用しています。レーザーには以下のような特性があります。

- 使用環境によって、光源の輝度が低下します。温度が高くなるほど、輝度の低下が大きくなります。
- 使用時間の経過にともない、光源の輝度が低下します。使用時間と輝度低下の関係は明るさ設定で変更できます。

▶ 関連項目

- 「レーザー警告ラベル」 [p.119](#)

レーザー警告ラベル

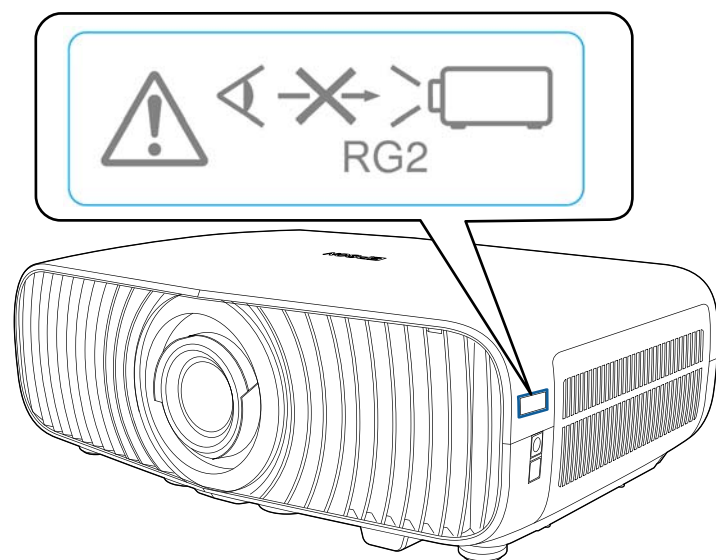
本機には以下のレーザー警告ラベルが貼られています。

内部



上面

投写中は、光源から放射される光をのぞかないでください。(RG2 IEC/EN 62471-5：2015に準拠)



⚠ 警告

- 投写中は本機のレンズをのぞき込まないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様やペットの行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 小さなお子様には操作させないでください。操作する可能性がある場合は、必ず保護者が同伴してください。
- 投写中はレンズをのぞきこまないでください。また、ルーペや望遠鏡などの光学機器を用いてレンズをのぞかないでください。視覚障害の原因になることがあります。

IEC 62471-5: Ed. 1.0で定義されたリスクグループ2 LIPとしての準拠を除き、レーザー製品のFDA性能基準に準拠しています。詳細については、2019年5月8日付のレーザー通知第57号を参照してください。

本書で使用している用語で、本文中に説明がないものや難しいものを簡単に説明します。詳細は市販の書籍などでご確認ください。

アスペクト比	画面の横と縦の比率をいいます。 横：縦の比率が16:9の、HDTVなどの画面をワイド画面といいます。 SDTVや、一般的なコンピューターのディスプレイのアスペクト比は4:3です。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がはっきり見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といいます。
4K	画面サイズの規格で、横3,840ドット×縦2,160ドットのことを呼びます。
Full HD	画面サイズの規格で、横1,920ドット×縦1,080ドットのことを呼びます。
HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略です。 DVIやHDMI端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正なコピーを防止する著作権保護技術です。 本機のHDMI端子はHDCPに対応しているため、HDCP技術で保護されたデジタル映像を投写できます。 ただし、HDCPの規格変更等が行われたときは、変更後の規格で保護されたデジタル映像を投写できなくなる場合があります。
HDMI™	High Definition Multimedia Interfaceの略で、デジタル家電やコンピューター向けの規格です。HD映像とマルチチャンネルオーディオ信号をデジタル伝送できます。 デジタル信号を圧縮せず高品質のまま転送できます。デジタル信号の暗号化機能もあります。

HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> 垂直解像度720p、1080i以上（pはプログレッシブ走査、iはインターレース走査） 画面のアスペクト比は16:9
ペアリング	Bluetooth機器で接続するとき、相互に通信できるよう、あらかじめ機器を登録することです。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。 そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。 その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ（Hz）で表します。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、HDTVの条件を満たさない標準テレビ放送のことです。

本機をお使いの際の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

▶ 関連項目

- 「使用限定について」 [p.122](#)
- 「本機を日本国外へ持ち出す場合の注意」 [p.122](#)
- 「瞬低（瞬時電圧低下）基準について」 [p.122](#)
- 「JIS C 61000-3-2適合品」 [p.122](#)
- 「表記について」 [p.122](#)
- 「商標について」 [p.123](#)
- 「ご注意」 [p.123](#)
- 「著作権について」 [p.123](#)

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認のうえ、ご判断ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

- 日本国内向けの本製品を海外で利用した場合は、保証の対象外となります。国内で販売する本製品は、日本国内使用を意図した安全規格基準のみ対応しているため、日本国以外でのご使用は違法となる場合があります。また、国や地域によっては電波使用制限があるため、ネットワーク機能を海外で使った場合、罰せられることがあります。

- 電源コードは日本国内向けの電源仕様に基つき同梱されています。本機を日本国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源コードを現地にてお求めください。

瞬低（瞬時電圧低下）基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

表記について

- Microsoft® Windows® 8.1 operating system
- Microsoft® Windows® 10 operating system
- Microsoft® Windows® 11 operating system

本書では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「Windows 8.1」、「Windows 10」、「Windows 11」と表記しています。また、これらを総称する場合は「Windows」と表記します。

- macOS 10.13.x
- macOS 10.14.x
- macOS 10.15.x
- macOS 11.0.x

- macOS 12.0.x
- macOS 13.0.x

本書では、上記各オペレーティングシステムを総称する場合は「Mac」と表記します。

商標について

Mac、OS X、macOSは、Apple Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows ロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

ドルビーラボラトリーズの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby Audio及びダブルD記号は Dolby Laboratories Licensing Corporation の登録商標です。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。 

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

Wi-Fi®はWi-Fi Alliance®の商標です。

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、セイコーエプソン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商品名は、それぞれの所有者に帰属します。

Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。

Matter™は、Connectivity Standards Alliance™によって開発されています。

Matterおよび関連するロゴ、商標は、Connectivity Standards Alliance の商標または登録商標であり、すべての権利は同連盟に帰属します。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。

(2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。

(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

(5) 本製品がお客様により不適當に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者（「お問い合わせ先」参照）以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

(6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

(7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

著作権について

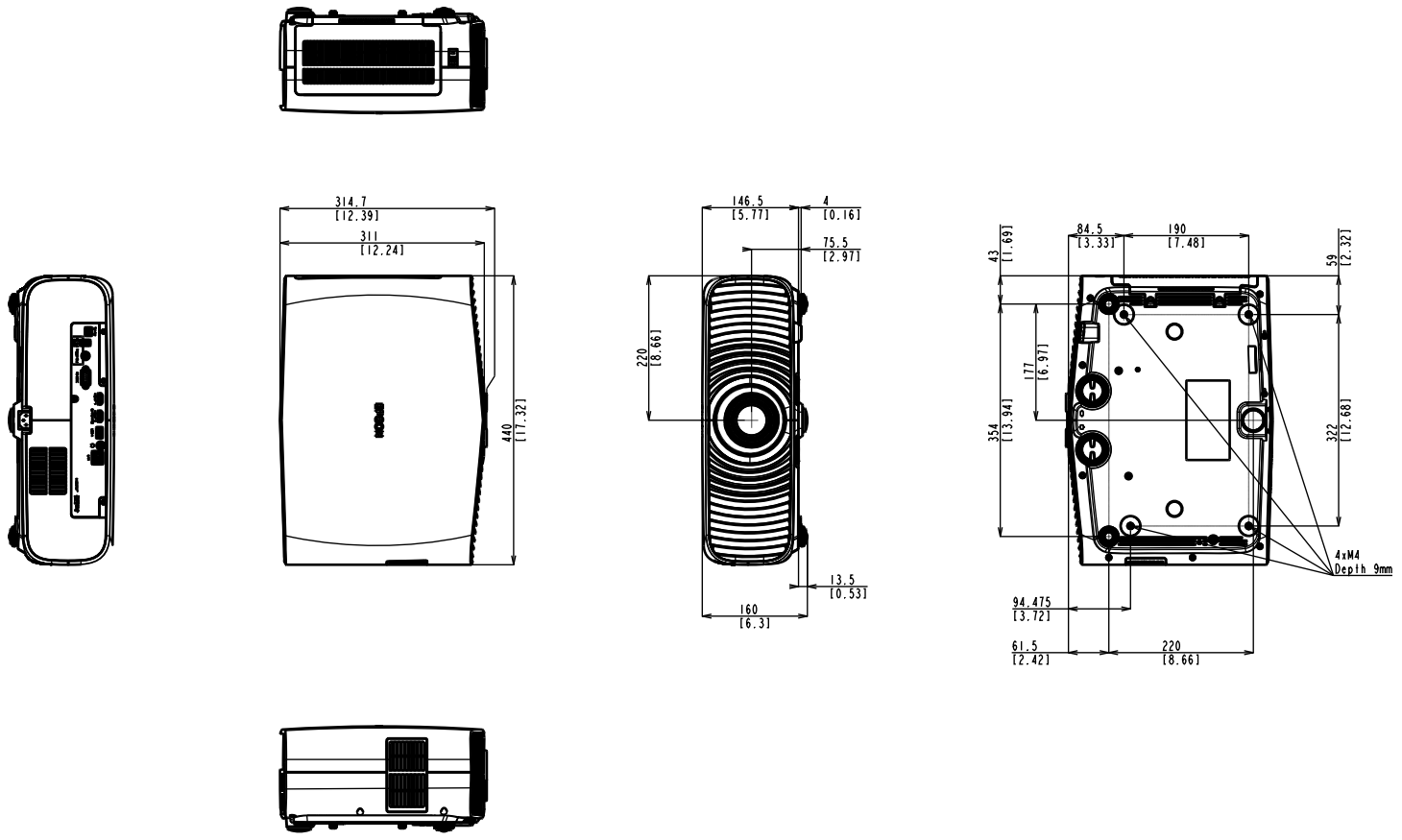
本書の内容は予告なく変更することがあります。

© 2026 Seiko Epson Corporation

2026.08 414779200 JA

外形寸法図

単位：mm
単位：[インチ]



吸気口、排気口の寸法

単位：mm

単位：[インチ]

